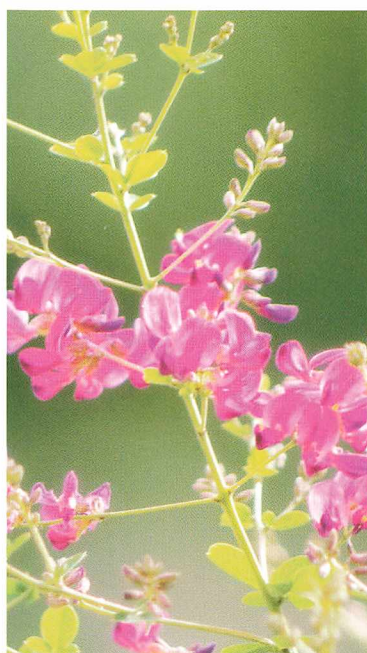




日本ゲシュタルト療法学会 10周年記念大会



トラウマケアに果たすゲシュタルト療法の役割

開催日：2019年7月13日(土)～15日(月・祝)

会場：東北福祉大学 仙台駅東口キャンパス

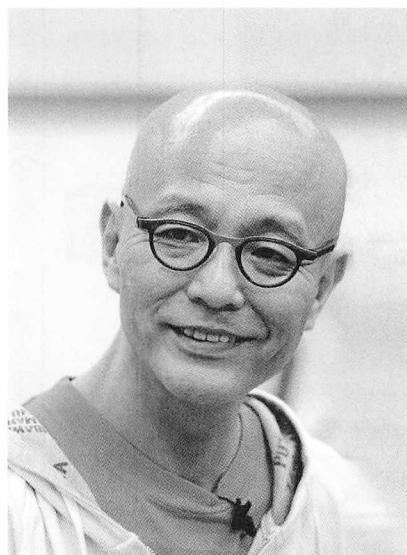
主催：JAGT10周年記念大会実行委員会

大会長：定行 俊彰



皆様、ようこそ仙台へ。

横浜でのJAGT第1回大会から10年の月日が流れ、本日ここ杜の都仙台において10周年記念大会開催を迎えることができました。



大会長：定行 俊彰

公認心理師 宮城教育大学教育学部卒業。カリフォルニア臨床心理大学院臨床心理学研究科卒業。米国臨床心理学修士。故竹内敏晴氏よりからだの感覚を磨くレッスンを受け卒業後、からだの声に焦点をあてた「ゲシュタルト療法」を知り、ポーラ・バトム氏等からトレーニングを受ける。現在個人でカウンセリングルームを開設。宮城県スクールカウンセラー。日本ゲシュタルト療法学会員。ゲシュタルト療法以外では、家族療法・短期療法・ペアレントトレーニング・認知行動療法などを学ぶ。

東北地方、特に太平洋沿岸部は2011年3月11日に発生した東日本大震災とその後の津波によって喪失した街並みの復興が現在も続いています。そして、被災による心のケアは被災からおよそ8年が経過した今でも多くの需要があります。今大会テーマを「ゲシュタルト療法におけるトラウマケアの役割」とした理由がここにあるのです。3.11などの自然災害や事故・死別などで負う単回性のトラウマや、虐待やいじめ、不適切な養育などで負う複雑性トラウマに対して多くの心理療法が提起されてきています。また脳科学の進歩によりトラウマが身体・脳に及ぼす影響が解明されつつあります。

行き過ぎた直面化は再外傷体験になり、治療を行っているつもりが、かえって傷を深くするという事実が明らかになってきています。

今大会では多方面から話題を提供してもらうことで、ゲシュタルト療法におけるトラウマケアの有効性や留意点などを参加者の皆様考える機会になってほしいと思っています。タリア・バーヨセフ・レヴィン氏にはゲシュタルト療法におけるトラウマケアについての講演とワークショップを行ってまいります。また、西澤哲氏、藤本昌樹氏、福地成氏によるゲシュタルト療法以外のトラウマケア専門家の皆様から話題提供やワークショップを行ってほしい、さらに津田真人氏には、闘争・逃避反応や凍り付き反応を理解するうえで注目されているポリヴェーガル理論の講座を開催してまいります。どの方たちも第一線でトラウマケアに取り組んでいる方たちです。参加した皆様がトラウマケアに関する心理療法や理論に触れるきっかけになるでしょう。さらに学会員による研究発表やワークショップが今大会の内容をより充実したものにしてくれています。

最後に、遠方からいらした皆さんには仙台ならではの食や景色・街並み等を思う存分に楽しんでいただき、素敵な滞在になることを心から願っています。この3日間運営スタッフ一同は、参加される皆様が充実した時間を過ごせるように精一杯お手伝いをしていきます。不明な点等がありましたら気軽に声を掛けてください。

2019年7月13日 定行 俊彰

プログラム

7月13日(土) 第1日目	
9:00 10:00	受付 開会式 61番教室
10:30	基調講演 演題『ゲシュタルト療法における トラウマケアの実際と留意点』 講師:タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳:池島 良子
12:30	昼食休憩
14:00	記念講演 『虐待やDVなどの慢性的な トラウマ体験が与える影響の 理解と心理療法あり方』 講師:西澤 哲 61番教室
16:00	休憩
16:30	ワークショップ 『ゲシュタルト療法を用いた トラウマケアの実際』 講師:タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳:池島 良子 62番教室
16:30	対談 『トラウマ治療への取り組み、 治療の現場から』 講師:藤本 昌樹&中尾 文彦 61番教室
18:30	終了

7月14日(日) 第2日目	
9:00	受付
9:30 10:30 10:45	研究発表 ①~③ 休憩 研究発表 ④~⑦ 75~78番教室
11:45	昼食休憩
12:00	JAGT総会 (会員は昼食を持参の上ご参加 ください。13:00終了予定) 61番教室
13:15	ワークショップ 『ゲシュタルト療法を用いた トラウマケアの実際』 講師:タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳:池島 良子 62番教室
13:15	講演 『地域の回復のために 私たちは何ができるのか』 ~東日本大震災後の復興からみえること~ 講師:みやぎ心のケアセンター 福地 成 61番教室
15:15	休憩
15:45	パネルディスカッション 『トラウマケアにおいて大切に することは何か』 パネラー:タリア・バーヨセフ・レヴィン 西澤 哲、福地 成、藤本 昌樹 通訳:池島 良子 / 進行:江夏 亮 61番教室
18:00	終了
19:00	懇親会 仙台ガーデンパレス (21:00終了)

会場案内

★受付は6階エレベーターホールです。

★昼食は

13日61番教室

14日62番教室

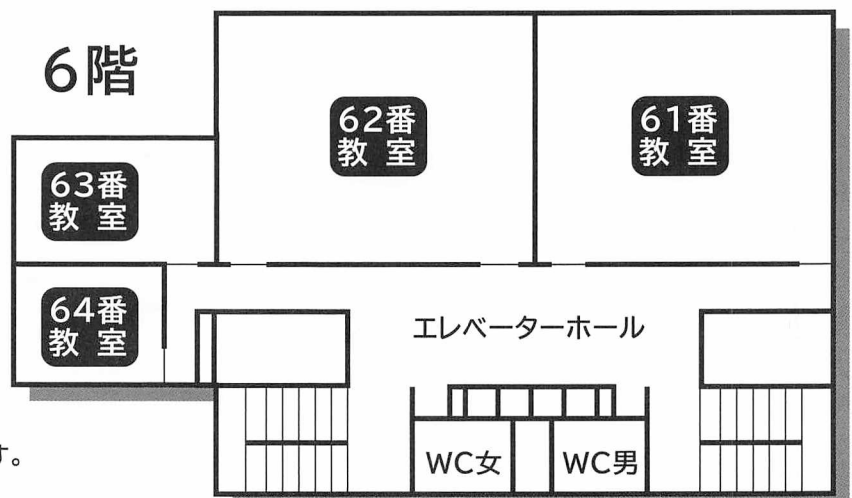
15日各ワークショップ会場

をご利用いただけます。

★クロークは63番教室です。

※貴重品はご自分で持ちください。

★書籍販売は6階エレベーターホールです。



7月15日(月・祝) 第3日目	
9:00	受付
9:30	招聘講師、学会員によるワークショップ (午前の部) 71~77 番教室 ① 講師:津田 真人 ② 講師:タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳:池島 良子 ③ 講師:藤本 昌樹 ④ 明石 郁生 ⑤ 賀戸 若江 ⑥ 梅村 朋子/齋藤 睦子/竹山 美智子/筒井 優介 ⑦ 守谷 京子 ⑧ 江夏 亮
12:00	昼食休憩
13:30	招聘講師、学会員によるワークショップ (午後の部) 71~77 番教室 ⑨ 講師:津田 真人 ⑩ 講師:タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳:池島 良子 ⑪ 講師:藤本 昌樹 ⑫ ジャクリーン・ヒルトン ⑬ 内海 まゆみ/佐敷 直子/永井 美雪/中野 英子 ⑭ 筒井 優介 ⑮ 藤井 さやか/三上 道代
16:00	休憩
16:30 17:00	閉会式 61番 教室 大会終了

書籍販売の お知らせ

6階エレベーターホールにて、以下の時間で販売します。

13日(土)

12:30~14:00
16:00~16:30

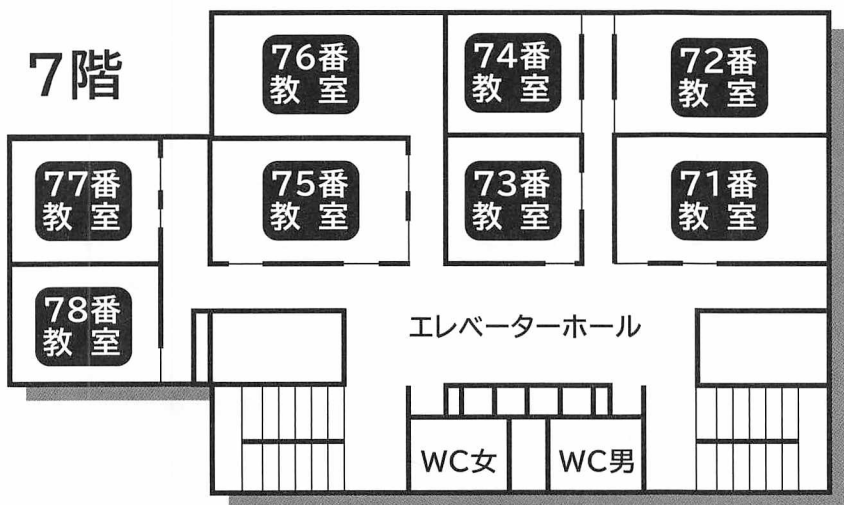
14日(日)

15:15~15:45
11:30~13:15

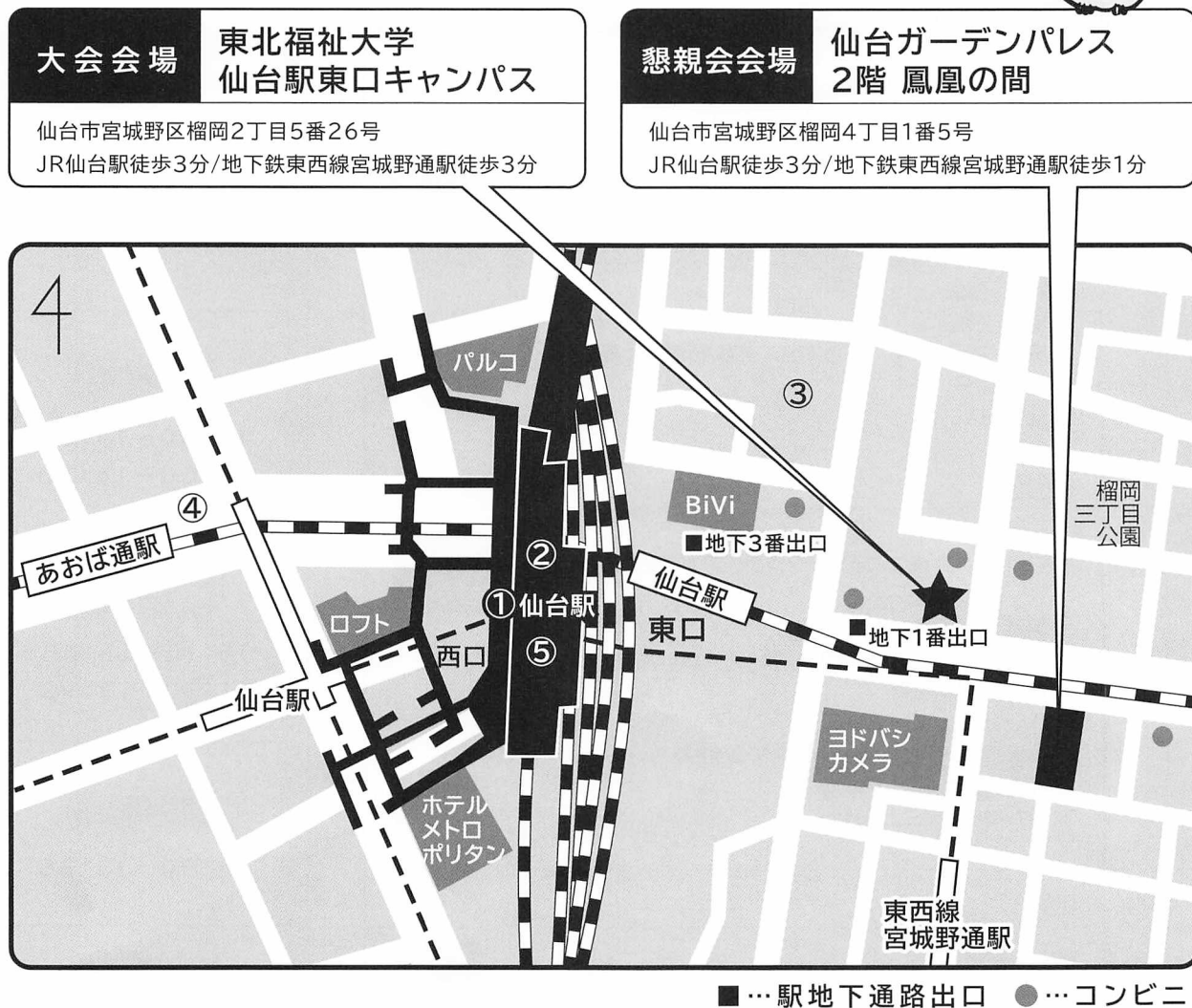
15日(月・祝)

12:00~13:30

ネット・書店では
買えないあの本も!



会場案内



周辺ご案内

- ① ステンドグラス … 新幹線を降りて中央改札口から出て2階に降りて行くとほぼ正面に七夕飾りのステンドグラスが。仙台の待ち合わせスポットとして有名です。
- ② 七夕飾り … 旧暦の8/6～8にかけて江戸時代から歴史のある七夕祭りが開催されます。学会期間中は、駅構内に小さな七夕飾りが飾られます。
- ③ 塩釜神社 … 全国津々浦々にある塩釜神社。ここ仙台塩釜市にもお祀りしてあります。会場近くなので、ちょっと休憩に清浄な空気を感じに行くのも今大会の楽しみに。
- ④ 青葉通り … 仙台西口正面には大きなケヤキの並木道があります。仙台城大手門前まで続くこの街路樹は社の都の代名詞。駅前周辺にはイギリス製のガス灯も設置されており、朝は森林浴、夜は灯された明かりの景色を楽しめます。
- ⑤ 仙台の駅弁 … 駅弁の種類がとっても豊富！駅弁好きだけでなくとも一度は食べてみたい、お弁当なのにホカホカが味わえる『牛タン弁当』をはじめ、『はらこ飯弁当』『海の幸常長弁当』『金華さば棒ずし』など。会場近くの榴岡三丁目公園でお弁当というのも旅先ならではの思い出に！

招聘講師による
講演・ワークショップ

学会員による
研究発表・ワークショップ



PsyD. Talia Bar-Yoseph
Levine
タリア・バーヨセフ・レヴィン

臨床心理学者ゲシュタルトセラピスト。イスラエルのゲシュタルト協会会長。

タリア氏はゲシュタルト哲学が、人間のつながりや対話のリーダーシップ、異文化間の理解を促し、より良い世界に貢献していると信じている。イギリス、チェコスロバキア共和国、ギリシャ、イタリア、ポーランドなど多くの国々でのゲシュタルトセラピストとして活躍している。

通訳：池島 良子

【基調講演】

ゲシュタルト療法における トラウマケアの実際と留意点

13日 61教室
10:30~12:30

トラウマは、思いもかけない究極の劇的な出来事です。それは、自分が生まれた時から依って立つ基盤のすべてとはいませんが、ほとんどを崩してしまうのです。たとえば現実に地震が起こり、生活の連続性が断たれる経験はまさに心を深くえぐり、あらゆる面で悪い結果をもたらします。多くの場合、トラウマを体験した人の慢性的な状態として、それを体験していない周囲の人々からの分断、孤立感、憔悴感が引き起こされます。

今回のレクチャーは、体と心、魂、そして理性とは全く相いれないこの症状をどのように立て直し癒すかについてです。急性のトラウマ状態と慢性のものを区別してお話ししようと考えております。

レクチャーの中では、いくつかのPTSDの事例と、ゲシュタルトセラピストとしてそれらをどう捉え、どう向き合うかをお話しするつもりです。その関わりは、人の存在に対するゲシュタルト哲学の観点から創出されたものであり、そして同時に、他とは異なるPTSDのケースに対する体への特有な注意の向け方、長く続く深い無力感や絶望感に対する内面からのサポート、自分自身の限界を受け入れること、恐怖との対峙などについて具体的にお話しします。

Trauma is the ultimate unexpected dramatic event. It shakes the ground one stands on and most if not the entire infrastructure he or she is stemming from. When the earth actually moves the experience of the continuity breaking is even deeper and all encompassing. It draws a divide between those who experienced trauma and those around them, isolation and sense of depletion often accompany the chronic cases. The lecture is about - body, mind, soul and how to reorganize and heal that which does not adhere to any reason. I shall pay attention to the difference between acute state and the chronic one. The lecture will include a few examples of PTSD cases and how we view and address them as Gestalt therapist. The treatment will be elaborated on from the Gestalt philosophy of being view point as well as a few specifics relevant to PTSD cases such as different attention to body, internal support to sustaining of deep helplessness and hopelessness, acceptance of one's own limitations, facing horror...

【招聘講師WS】

ゲシュタルト療法を用いた トラウマケアの実際

13日 62教室
16:30~18:30

15日 76教室
9:30~12:00

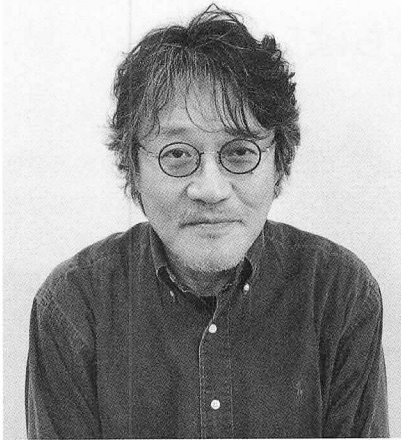
14日 62教室
13:15~15:15

15日 76教室
13:30~16:00

タリア・バーヨセフ・レヴィン氏による少人数のワークショップです。

基調講演の内容をさらに深く参加者の皆さんが、レクチャーやデモンストレーションのワーク、質疑応答などを通してより体験的に学びます。

CSP・アメリカの
 報教育のプログラム(邦訳的)
 28条有限化、1980年代アメリカ特種部隊
 に対して、プレイセラピーが適応された。
 病理(依存性、無力感に基づく支配性
 自己感障害)



西澤 哲

山梨県立大学人間福祉学部教授
 学部長1957年、神戸市生まれ。大阪
 大学人間福祉学部卒。サンフラン
 シスコ州立大学教育学部カウンセ
 リング学科修士課程修了。情緒障
 害児短期治療施設心理士、大阪大
 学大学院臨床福祉学講座助教授を
 経て現職。虐待を受けた子どもや
 虐待をしてしまう親の支援を中心
 に臨床活動に従事する。

Terの「禁じられた遊び」



藤本 昌樹, 中尾 文彦

中尾 文彦

私は奈良県にある、やまと精神医療
 センターで13年ほど仕事をしてい
 ます。そしてゲシュタルト療法は学
 びはじめて15年ほどが経ちます。
 私は精神科でゲシュタルト療法だ
 けを行っているわけではありません
 が、私の臨床経験をもとにトラウ
 マのケアにゲシュタルト療法が役
 に立つのか?についてお話ししたい
 と思います。

※藤本氏紹介はP9参照のこと。

【記念講演】DV: 自らの無力感の支配性
 虐待やDVなどの
 慢性的なトラウマ体験が与える
 影響の理解と心理療法のあり方
 ネグレクト・作業者マクドリートメント

13日 61教室
 14:00~16:00

1995年の阪神大震災以降、欧米と同様、わが国においてもトラウマ(心理的外傷)への関心が高まり、精神医療や心理療法の領域でもトラウマへの治療的介入が試みられるようになった。トラウマ性の症状に対する治療としては、長時間暴露法(prolonged exposure)やEMDR(eye movement desensitization and reprocessing)などの治療法の有効性が示されてきている。これらの治療法は、災害や事故などの、いわゆる単回性のトラウマ体験に起因するPTSD症状の改善には効果があるものの、家庭内での虐待やDVなどの慢性的・反復的なトラウマ体験によるトラウマ症状への適用には限界があると指摘されている。こうした限界の背景には、単回性のトラウマと慢性的なトラウマによる症状形成の違いがあると推測される。

トラウマ性障害への治療的接近の原則 → トラウマからの回復 未統合の漸進的
 そこで本講演では、慢性的なトラウマ体験に起因する複雑性PTSDや発達性トラウマ
 障害(developmental trauma disorder)を、おそらくはこうした症状形成に影響
 を与えていると思われるアタッチメント(愛着)の問題を含め、理解するための枠組み
 を提示し、その上で、こうした問題への精神療法・心理療法のあり方を検討する。

play-ther (CAP 社会的養護に特化した心理療法 play-out. 他の表現手段
 ↓ 社会が責任を担って 再統合 → トラウマはネットワークが一般と
 違う。それ以外のネットワークは、この本自体に示されています。
 虐待という慢性的なトラウマ体験は子どもにも全人的な影響を及ぼす
 複雑性・発達性トラウマ障害 恐怖に刺さった心(本)
 再現性・慣性。トラウマは再現性が悪化していく。

【対談】再体験 - 解放 - 再統合
 (つかり現象) (トラウマからの回復)
 トラウマ治療への取り組み
 ~治療の現場から~

13日 61教室
 16:30~18:30

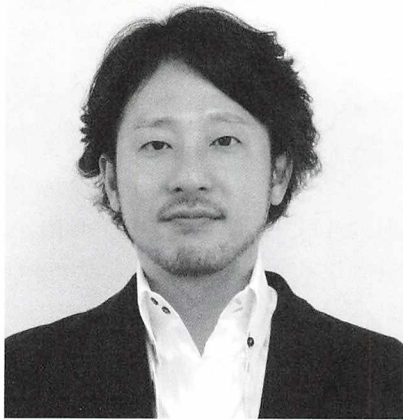
身体志向心理療法であるEMDRやTFTなどを臨床現場で実践しながら、独自のトラウマケア療法であるボディ・コネクト・セラピー(以下、BCT)を開発した藤本昌樹氏とゲシュタルト療法学会会員でもあり、EMDRやイメージ療法など様々な心理療法を組み合わせながら、長年精神科医療において心理士として実践を積み重ねている中尾文彦氏による対談です。

EMDR・TFT・BCTはゲシュタルト療法と同じく身体志向心理療法でありながら、そのアプローチは大きく異なります。クライアントの安心・安全に最大の配慮を行いながら眼球運動とタッピングなどを用いた画期的なトラウマケア療法ともいえるでしょう。

この対談では藤本昌樹氏にBCTについての解説を行ってもらうところからスタートします。それに対して中尾文彦氏からトラウマケアに対する自身の考えや日頃の実践例を交えながら質問を行っていくスタイルで展開して行きます。臨床現場での治療経験、EMDRという共通項、BCTとゲシュタルト療法という異なるアプローチの二者の話題が交差しながら対談ライブが展開していきます。

初顔合わせの実践家によるトラウマケア論を楽しみにしてください。

地震は、ふたたび来るとき、心のケアの必要性がある。
神経のふるりをフラットに持って行く。自分の状態を理解する。
レゾナンスを向う。習慣をリセット。



福地 成

公益社団法人 宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター副センター長。青森と北海道にて小児科医として勤務後、宮城県にて精神科医として精神科救急、地域精神保健に従事。東北大学大学院では公衆衛生学教室にて、自殺の疫学・予防を研究。2011年12月より、震災復興に特化した「みやぎ心のケアセンター」に勤務。宮城県を中心として被災地の訪問、各種の普及啓発活動、地域支援者へのスーパーバイズなどを行っている。

9ヶ月のとき、その人の視野に、ホロロリング 遮切は、

【講演】

地域の回復のために私たちは何ができるのか

14日 61教室
13:15~15:15

東日本大震災では、約40万人が避難所を利用し、そのなかには高齢者や障害者をはじめ特別な配慮を要する人々が多く含まれていた。避難所の多くは学校の体育館などの広い空間であり、プライバシーを守るための仕切りもない中での生活を余儀なくされた。それぞれが余裕を失った中で、お互いを思いやることは難しく、興奮と緊張の中で過ごしていた。このような状況下では、心理的なストレスを感じていたとしても自ら相談機関へ訪れることは稀であり、精神保健の専門職は被災者のもとへ出向く必要性が高まった。

精神保健の支援者は、個人の回復のために現場で、来所型の支援を中心に活動してきた支援者も多かった。ところが、災害発生後には地域全体の健康を守ることも重要視され、『来所型』の支援者も『訪問型』にシフトする必要性が高まった。

およそ8年が経過したいま、地域生活や支援活動には時々刻々と変化が見られる。地域住民は仮設住宅から復興住宅へ移動し、それぞれが抱える社会問題と対峙している。全ての根源はいずれも将来が見えないことへの不安感にあり、時期や地域によって抱える問題が異なっている。

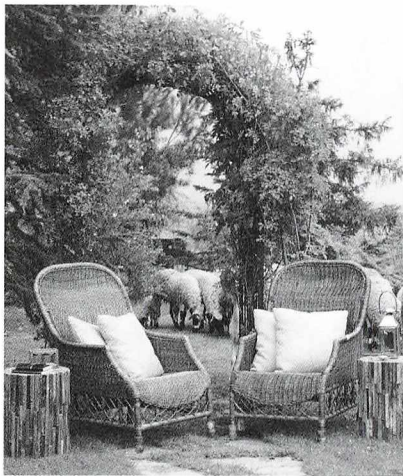
もはや「こころのケア」だけに焦点付けした対応では不十分であり、雇用や経済情勢に即した政策を必要としている。精神保健の専門職は地域の他機関とつながり、公衆衛生としてのメンタルヘルスに参画する必要性が高まっている。

学会当日は、上記のポイントに焦点を当て、災害後の心理的支援について若干の考察を加えて話題提供したい。

【パネルディスカッション】

トラウマケアにおいて大切にすることは何か

14日 61教室
15:45~18:00



ゲシュタルト療法を用いたトラウマケアを実践しているタリア・バーヨセフ・レヴィン氏、児童虐待治療分野で活躍している西澤哲氏、東日本大震災後の心のケアを精力的に行っている福地成氏、独自の身体志向療法BCTを用いてトラウマケアを実践している藤本昌樹氏の4氏による対談です。

トラウマケアと一口に言っても様々なアプローチが存在しています。また急性の単回性トラウマや長期にわたる複雑性トラウマに対する治療の違い。治療対象が大人なのか子どもなのかによって異なるアプローチ。震災という大規模な自然災害後に求められる心理支援。トラウマケアという言葉で一括りにするものの、個人の外傷経験は複雑で多様を極めていきます。

今回の対談では、それぞれの専門分野の話を変えながら、具体的なアプローチの違いを超えて根底に共通するであろう「トラウマケアにおいて大切にすること」が浮かび上がってくることでしょう。参加者との質疑を交えた熱く貴重な時間となるでしょう。

■パネラー:

- ・タリア・バーヨセフ・レヴィン (通訳:池島 良子)
- ・西澤 哲
- ・福地 成
- ・藤本 昌樹

■進行:江夏 亮



津田 真人

東京都国立市にて心身社会研究所自然堂(じねんどう)治療室・相談室主宰。ゲシュタルト・セラピーをはじめ、心身両面を統合する多彩な臨床活動を、27年余にわたり地域で展開。その傍ら、近年はポリヴェーガル理論のセミナーを全国各地で好評開催中。一橋大学大学院社会学研究科後期博士課程修了。精神保健福祉士。鍼灸師。あんま・マッサージ・指圧師。ゲシュタルト・セラピスト。SETM認定プラクティショナー。

【招聘講師講座】

トラウマセラピーとしての
ゲシュタルト療法の可能性
～ポリヴェーガル理論との対比から～

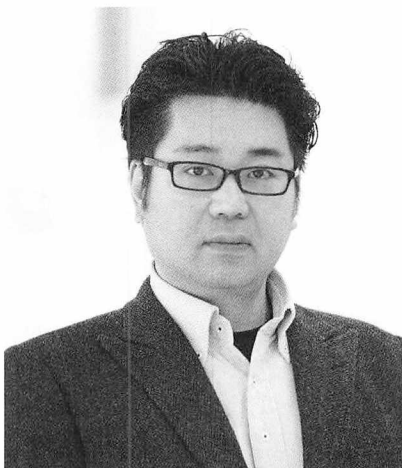
15日 71教室
9:30~12:00

15日 71教室
13:30~16:00

「ポリヴェーガル理論」(Polyvagal Theory)の名前は、初めて耳にする方も多いかもかもしれませんね。欧米ではすでに、最先端のトラウマ理論の1つとして、多方面に大きな影響を与えていますが、それと照らしながら、ゲシュタルト療法をトラウマケアとして発展させるヒントや可能性を探ってみようというのが、この講座のねらいです。まずはポリヴェーガル理論の概要を解説したうえで、そのゲシュタルト療法との異同を検討しながら、ゲシュタルトのトラウマセラピーとしての可能性を考えていきます。

実は両者は、根本では共通点が少なくありません。どちらも、心身統合的な「有機体」を主体にすえ、そのホメオスタティックな生命のリズムを重視します。特に外界との「コンタクト-回避」のリズムや、「関与-非関与」のリズムを重視します。そのバランスの乱れに、ストレス・トラウマなどの「未完了の問題」(unfinished business)をみます。その回復には、「今・ここ」という真正な、あるいは「安全な」場を不可欠とします。

でも同時に両者は、その各々の点で、微妙にズレをみせます。そのズレを掘り下げてみると何が見えてくるか!?例えば、ゲシュタルトではストレスとトラウマが「未完了の問題」の中に渾然一体となっていますが、そもそもストレスとトラウマって、同じものなのか、違うものなのか?同じケアでいいのか、違うケアが必要なのか?そんな辺りを手始めに、ゲシュタルトの可能性を、当日一緒にいろいろと考えていけたらと思っています。



藤本 昌樹

東京未来大学こども心理学部教授。臨床心理士。東京学芸大学大学院心理学講座修了。東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士後期課程修了。身体志向心理療法であるEMDRやTFTなどを臨床現場で実践する活動を展開し、独自のボディ・コネクト・セラピーを開発した。Seeding Resourceで代表を務め、トラウマなどのセラピーを行っている。

【招聘講師WS】

BCT(ボディ・コネクト・セラピー)
入門ワークショップ

15日 72教室
9:30~12:00

15日 72教室
13:30~16:00

ボディ・コネクト・セラピー(以下、BCT)は、日本発の新しいセラピーです。EMDRやTFT(思考療法)、SE(ソマティック・エクスペリエンス)といった身体志向のセラピーを統合し、さらに創始者の新しい発見によって開発された統合的な身体志向心理療法です。

BCTは2016年に発見され、発展途上のセラピーではありますが、日本のトラウマ・セラピストの間では評判となり、2018年に2回行われたワークショップも40分ほどですぐに満席となり、日本でも100名を越すBCTセラピストが誕生しています。それらの多くは、臨床心理士や医師であり、すでにEMDRなどを学んできた人たちがその効果に驚嘆しています。

BCTは臨床場面の中で、特に複雑性PTSDの方々への安全なトラウマ処理の手法として誕生しましたが、適用範囲は広く、疼痛などの身体的な症状にも使用可能です。また、処理速度も多くの場合15分~20分未満とするデータもあります。必要以上に神経系の活性化を高めることもなく、解離性症状をもった人にも、滴定(てきてい:調節の意)を行いながら安全に使用することが可能となっています。

今回のワークショップでは、このBCTの誕生した経緯、それを支える諸理論やBCTの治療機序仮説、そしてBCTの臨床の実際についてワークを交えながら紹介したいと思っています。

無意識に避けているものと直面する ～組織へのゲシュタルト療法の応用～

藤原 勝

ビジョンカムトゥルー株式会社/ゲシュタルト療法・東京



① 14日 76番教室
9:30～10:30

【目的・方法】

企業研修(リーダーシップ研修や組織開発)での経験をもとにゲシュタルト療法のビジネス・産業分野(企業・組織)への応用を試みる。

【内容】

1. 筆者の業務は企業対象にリーダーシップ・組織開発を行っている。再決断療法・ゲシュタルト療法(以下GT)と出会い30年以上になるが、6年前まではGTは個人の成長/問題解決には役立つと思うものの、企業・組織への適用は難しいと思っていた。ところが、Taliaさんと会ってヒントをいただき、さらに米国クリーブランドゲシュタルト研究所での体験・学習(2013年10月より10回のトレーニングプログラム)から企業・組織に応用可能と思いだした。特に「今ここで、自他と環境にコンタクト(直面)する」概念が応用できると考えている。

2. (事例1)「リーダーシップ研修」で部下の意見を聴かない職場リーダー

(1)某企業の研修で、ある職場リーダー(以降CL)は360度評価サーベイから「部下がリーダーに業務改善提案しても反応しない」というサーベイ結果は認知したが、職場での具体的な場面が想定できなかった。グループワークの中でCLの行動につき他参加者が質問しても答えないので、CLの頭越しに他の参加者同士で会話すると言うことが起きた。そこで筆者は「今ここで起きていることがそうじゃないですか」と指摘し、具体例でCLに理解してもらった。

(2)どうしてそういうことが起きるか、次の自己洞察のセッションでCLに考察してもらった。その結果、CLは幼少時に親との関係で自分を出さない方が良いと決断したことを思い出した。その結果、周囲の会話があっても関わらず自分の世界に閉じこもっていたと気づいた。

(3)3日目に自分の新たな行動方針「自分を出す」をCLは発表した。他参加者のアドバイスに対応できず黙ってしまった。筆者が新しい行動(自分はこれで行く!と力強く宣言)を提案した。とまどいながらそのCLが宣言すると「これでやれる」と気づきがあった。他参加者も「それならそれに従う」とフィードバックがあった。

3. (事例2)組織開発での外部環境に直面しない

(1)外資系医療機器メーカーの2年かけた組織開発の事例を紹介する。第1ステップは何でも話し合えるようにするチームビルディングを行った。第2ステップは組織が生き延びるための事業戦略・戦術を考えるというプロセスを取った。

(2)第2ステップで会社の環境の現状把握と今後の課題について意見交換を行った。このままでは親会社方針で当事業場は閉鎖されるという状況だったが、それを参加者は話題にしない。筆者が「これでいいんですか」と問題提起しようやく「これではまずいな」という意見が出て、一気に組織の環境につき認知し話し合うようになった。

4. 考察「避ける」とは何か

(1)精神分析の否認にあたるが、Ansel Woldtの言う起きている事実を感じない減感/鈍感(Desensitization)に当たると考えられる。GTの気づきの領域でいうと中間領域、内部領域に意識が固着して外部領域に意識が行かない状態と考えられる。Fパルズは不安(恐怖)があると起き、それは過去の未完了の体験から起きる、と言っている。

(2)事例1の場合はCLに今ここの状態(他者との関わりを無意識に避けている)の認知をゆっくり促進し気づいてもらった。次にその過去の状況、どういう幼児の経験で今の心理状態があるのかをさぐってもらった。その結果、過去の未完了の事柄が原因となっていることに気づいた。ただ知的な気づきに留まり、翌日再度他者との積極的案交流が必要な場合になっても応用は利かなかった。そこで筆者が新しい行動(自分はこれで行くと宣言)の実験を提案し安全な環境を準備した。そしてCLに実行してもらったら新たな気づきがあった。初日に比べると「避けている」状態に対しての認知や気づきが深まっていたから、違う行動が取りやすくなったと考える。また他参加者のフィードバックも新たな行動が受容されるんだとCLは感想を話していた。

(3)事例2の組織の場合も「無意識に避ける」状態が集団で起きた。これは組織の内部にばかりに意識が行って、

組織を取り巻く経営環境に対して「意識しない、見聞しても感じない」状態と考えられる。周りの人も同じ意識だから組織内では違和感を感じない。違和感を感じる人がいても影響力の上位の人の意見に流される。

違う視点を持つ筆者が問題提起をして外部環境にコンタクトしてもらい徐々に何人かが気づくようになった。集団だと複数の図を見るので気づき・行動に時間がかかるが、筆者が介在して「一つの図」を見るよう促進し集団としての気づきに繋がっていったと考える。

【結論】

職場リーダーが他メンバーとの交流を「避ける」、及び組織で外部環境の認識を「避ける」ことに対しGTファシリテーターが外部環境とゆっくり「コンタクト」するよう関わることにより、現実とコンタクトするようになる。「コンタクト」はリーダーシップ・組織開発に有効なアプローチであることが分かった。

支援する人自身のセルフケアにゲシュタルト療法を生かす～看護学校での取り組みを振り返る～

三井 洋子
長野ゲシュタルト研究会・株式会社Dream Seed



② 14日 77番教室
9:30～10:30

【はじめに】

看護職は、患者の身になる、あるいは患者中心という視点を学ぶことが多いため、自分自身の気持ちや思いを抑圧したりないがしろにしやすい。支援する側の看護職自身が自分も大切にしながら患者や家族のケアができるようになるために、学生時代から自分自身に気づき、感情等のセルフケアを心がけることが必要だと考える。そのためにどのような学びを提供すればよいか模索しながら実践してきたので、学生の振り返りの感想をもとに考察する。

【実践経過】

看護学校(1年次)で学ぶ基礎看護Ⅰ「コミュニケーション」の授業15講の中で、自分も相手も尊重したコミュニケー

ションをとるためのベースづくりや具体的なスキルを身につけることを目標に、ゲシュタルト的な内容を加えて下記のような内容で授業を展開してきた。

基礎看護Ⅰ「コミュニケーション」の授業内容		基礎看護実習	
第1講	コミュニケーションの基本(人に近づく、距離・角度・接触)	第9講	傾聴Ⅱ(相手の感情や思いを聴き、受け取る)
第2講	やり取りについて(ストローク)	第10講	自我状態と交流パターン
第3講	信頼関係を作るスキル(リフレクション、ミラーリング、ペーシング等)	第11講	アサーション (自分と相手を大切にコミュニケーション)
第4講	傾聴Ⅰ(相手の体験している世界を聴く。自分の世界とは違う事を知る)	第12講	質問力を高める。 情報や自分の考え、気持ちを伝える
第5講	気づきの3つの領域と五感の使い方	第13講	コミュニケーションタイプを知るⅠ
第6講	事実をどう受け止めているか、同じ事実をどうとらえるか 人との違いを知る	第14講	コミュニケーションタイプを知るⅡ
第7講	セルフケアⅠ(自分の感情に気づく)	第15講	レポート
第8講	セルフケアⅡ(自分の感情を癒す)		

演習等で気づきを促し、基礎実習に出る前に感情のセルフケアについて、講義と演習を体験できるように組み立てている。毎回授業の終わりに書く振り返りシートのうち、セルフケアⅠ・Ⅱ、アサーションに関する3回分(表の網掛け部分)について、感想からそれまでの学生の状況と変化について分析し、考察する。

【結果及び考察】

*感情についての認識:「怒ることは良くないこと」「自分が泣いたり怒ったりすることはだめなことである」「ネガティブな感情を表現せずに波風立てずに終わるのがベスト」「我慢してその場を乗り切れれば終わり」「喜びの感情は周りのおかげ、ネガティブな感情は自分のせい」等、ネガティブな感情に対して否定的な認識を持ち、その感情が湧いてくる自分をも否定する思考が圧倒的に多かった。

*感情表現の現状:「イライラ解消はうまいが、腹痛が多い」「自分の感情は外に出さない」「イライラをためすぎて切れたことがある」「自分の感情がいっぱいになって泣いてしまうことがある。そして自己嫌悪になる」等、自分自身が感情を抑圧し表現していないこと、結果的に自分も好ましくない結果になっていることに気づいている者が多い。

*感情への対処で肯定的なもの:「いっぱいいっぱいになると母が聴いてくれた」「友人に話して支えられたことがたくさんある」「部活の先生に言いたいことを言い合え

アセスメントなしのグループワークは危険がある
トラウマのグループがそれ以外か(本人がゆがらないうつもある)
シーボスト EMDRで距離を考える。

と言われ、少しずつやってきたから乗り越えられた」「紙をクシャクシャにして投げたり、深呼吸をやっていた」等自分や周囲の対応で、表現できたことにより乗り越えられたことに気づいている者もいる。

*アサーションの感想:圧倒的に受け身的対応(自分の言いたいことを表現しない、相手の言い分を受け入れる)が多いと認識している者が多いが、GWではその場では受け身的であるが陰で攻撃する間接的攻撃タイプもかなり多いことがうかがえる。難しそうだができるようになりたいという者が多い。

*授業の感想:「感情的になる自分がだめだと思っていたので講義を聞いて少し楽になった」「実習前で緊張や不安が強いので、聞いて良かった」「これから試してみたい」「コミュニケーションは相手のための授業と思っていたけれど、自分を大切にするという視点が印象的だった」「自分の気持ちを大切にすることをおまわり言われてこなかったので新鮮」

【まとめ】

援助職のバーンアウトや新人看護職の離職等が課題となっている中で、相手を尊重するだけでなく、自分自身を大切に交流をすることを学ぶ機会が必要だと再確認した。「知らない、学ぶ機会がない」状況を少しでも改善していくと共に、1年次のみでなく継続して学び体験する機会を設ける検討をしたい。

memo. 7/14 パネルディスカッション
トラウマのアプローチ-4. 治療 大切にしていること。

藤本. アセスメント. SBU
介入 EMDR 解離のイメージをもっている。二重に
ポリカカシイメージとして。グループ。と。F.Eとの関係性を創る コラボレートした関係性
福地: ① 個人: フラット。白紙の状態。子供にははかりの物自身に。トラウマの時は必要と
② コミュニティグループ: フラットでいる。文化・背景にあるものを読みと、つく。姿勢をアジャストして。
ゲジタウトのアセスメントは、その人を知り。セラピーがうまく行く。江夏
西澤: トラウマとアセスメントのインフォード (2回) 子供に会う回数 動機づけ心理教育
いや心の中にとじこめたいと心にくさつていく。他子供にリガモセヨウ
その子が。セコスキー あと1歩さきも。
日本災害大国から先を見よう。自然とコントロールする考えを取り入れたらトラウマが
始まった。トラウマ概念として。エクスポートが大事。
タリ: 1つと1個はついで。
継続性の断せつはついで。恥についで。自分に恥を感ずると対人関係がとらわれ。
引きつらくなる。恥と孤独。ゲジタウトと取り方の哲学。
トラウマの場合 複 セラピーをうけるのも恥ととらえる。トラウマは突然あるから。セラピー
を受ける必要が複 集る。クライアントは 有機体的自己開示
ほきてくためのサポートをさせてくれる。ゲジタウト。そこに居ること。禅は入らな。流すとトラウマを
組みこむという。ついででも引おきに出入りしおけること。
999: 最後のこぼれで。良いことだけしてた人(人)が居るだけ 楽観。そこは好きでも居ること
ここに興味がある。

物質使用障害・行為障害を持つ人への ゲシュタルト療法の活用

岩崎 風水
東京発達 Labo 代表



③ 14日 78番教室
9:30~10:30

【問題と目的】

物質使用障害・行為障害(以下、嗜癖)を持つ人は、単純に快楽を求めて当該物質を使用するのではなく、トラウマによる主観的苦痛の緩和という内的必要性によって当該物質を使用するという側面がある(Khantzian & Albanese「自己治療仮説」)。しかしながら、主観的苦痛という問題を解決する方法の一つであった嗜癖は、心身の健康を損ない、環境との関係を悪化させ、現実への気づきや対処を遅らせるという側面もある。ゲシュタルト療法(以下GT)は、情緒や現実の客観的状況への気づきを促すことが可能である。そこから、GTは嗜癖からの回復に効果的であるとの仮説をたて、対面と電話でカウンセリングを行った事例を報告する。筆者と対象者は、書籍アルコールクス・アノニマス(以下AA)に収められた「12ステッププログラム(以下、12Step)」を用いる自助グループのメンバーである。カウンセリングを行うにあたり、12Stepを受けるという意味での「スポンサーシップ契約」を結んだ。なお、本発表の事例は契約に基づき、発表に先立ち、それぞれに予め書面で同意を得ている。

【事例】

事例①:43歳男性Aさん。8年前より覚せい剤を使い、半年前からコントロールが効かなくなった。無断欠勤が続いて長年働いていた会社を退職。現在は、ほぼ毎日依存症の回復施設に通う。夜は薬物依存症の自助グループに参加している。4か月前から週1回のペースで飲食店の中で約90分の面談を継続。10回目。12stepで言うステップ4,5により、過去から恨んでいる人たちの棚卸し表を作り、自分の欠点を見つける作業をした。小学生のときの両親との夕食のことを話す。Aさんは父親と口論をしていた。父親が食卓をひっくり返し、母親が黙ってその場にたたずんでいるシーンだった。スペースに限りがあることから、GTのエンプティ・チェアの代案として、Aさんには付箋に「父親」「母親」「Aさん」「部屋の中の食卓」を書き出してもらった。それを机の上に配置し、「父親」「母親」「Aさん」がどのような状態にいるのかを話してもらった。その後、フォークを受話器に見立て、Aさんが過去のそのシーンに電話をかけるよう実験の提案(JAGTテキスト(新版)P70)をした。Aさんは、受話器の先に母親がいることを感じ、母親が「父親からの暴力からの無力感から動かたくても動けないのだ。」と言ったと、語った。次に、Aさんは過去のAさんに受話器を回し、過去のAさんが母と同様に、父に対する怒りを恐怖で押し殺していたことを聞いた。そして、過去のAさんの感じている父に対する怒り・恐怖を、今—ここにおいて話すことで再体験をした。自分の欠点として、思ったことを言わなかった不正直さ、恐れがそれをさせなかったこと、両親の気持ちに対しての配慮の欠如があることを認めてワークを終えた。Aさんは、そのとき以来嫌な気持ちとともにその過去が想起されることがなくなったという。

事例②:30代女性Bさん。看護師。アルコールと依存症と共依存症。小学生時代に「死ぬ、死ぬ。」と父親から歌

われて侮蔑されたことがある。週一回90分程度を目安に電話によるワークをした。1回目。Cさんは、職場で上司に注意されるたびにその父親が「死ぬ。」というシーンを思い出し、怒りの感情に振り回される。死ぬことしか思い浮ないといい、話してになる。18回目。STEP4,5,棚卸し。ゲシュタルト療法のエンプティ・チェアを行った。Cさんは自室でベッドの上のクッションが父親であるとして、その父と対面した。言葉に詰まって話せなくなった後、父親に舞台から消えてもらう提案をしたところ、Cさんは「消えてほしくない。」と言った。父親との楽しい記憶の話とともに、「今の私の負けず嫌いの性格は父に褒められるのが嬉しくて身につけたものです。父の期待に答えられない無力感から父に反抗してきました。」と話をした。その後、STEP8,9の埋め合わせにより、自分が同じことを繰り返さないことを約束し、後日父に感謝している気持ちを直接伝えた。それ以来、Bさんは上司に注意をされても怒りに支配されることがなくなったと話してくれた。

【結果と考察】

これまでに、Aさんとの面談は4ヶ月で18回。Bさんとは8ヶ月で26回。両者ともスポンサーシップを継続中。双方とも棚卸し(及びGT)の後の二日ほどは体調がすぐれない日があった。その二日ほどは自助グループの集會に参加し、Step6,7の祈り、Step11の瞑想、経絡のタッチング、ヨガ、散歩などを用いて、より健全な自己治療を用いて安定していった。

Step4,5は、過去を振り返り、自分がしてきたことやその時の感情に気づくことを目的としているが、「気づき」はGTの核でもある。全体の進行は12Stepでありながらも、適宜、GTを併用することで、より気づきを深め、治療効果も大きくなったように思われた。

ゲシュタルト療法 個人への展望とそのディスカッション ～Encuentro～

渋谷 祥代

Heartful Counseling Joy 代表 大阪心理教育センター勤務
臨床心理士・公認心理師



④ 14日 75番教室
10:45～11:45

【目的】

発表者は日頃、カウンセリングセンターでカウンセリングを担当しています。その中で、ゲシュタルト療法で得た知識、体験が臨床に活かされているのを実感しています。しかしながら、ゲシュタルト療法の個人への効果については、その特質上、個々の体験に因り、あまり体系化されていません。

そこで本発表は、参加された方々と共に、ゲシュタルト療法のグループワークの中で体験したことが、個々のセラピーや生活にどのような効果をもたらし、どのように変化したのか、限界はあるのか、などについて自由にディスカッションを行いたいと考えています。

【方法】

・録音の許可、内容が研究発表や論文資料として使用される可能性を説明・同意を頂く。

※研究発表および論文に使用される場合は、個々のプライバシーへの配慮を行う。

・アンケート(自由記載;効果と限界)の実施。

・アンケートに自由記載して頂いたものをベースに自由

にディスカッションを行う。

・必要に応じて、事例や議題を発表者が提示する。

・アンケートを回収する。

【結果・考察】本発表とディスカッションをもとに、発表者が結果をまとめ、ゲシュタルト療法の“効果検討”や“個人セラピーへの展望と限界”を考察してゆく。

エンプティチエア再発見・再構築 ～日本独自のゲシュタルト療法を探る～

岡田 法悦/江夏 亮/藤原 勝

日本ゲシュタルト療法学会研修委員会専門コアメンバー



⑤ 14日 76番教室
10:45～11:45

【目的】

日本のゲシュタルト療法(以下GT)研究会の初回として、欧米では近年使われないエンプティチエア(以下EC)アプローチの良さの再発見・再構築を試みる。

【本件の背景】

1. 第3期日本ゲシュタルト療法学会理事会で今後の日本のGTを広めるための課題を話し合ったが、会員内外に発信が必要ということになり、日本固有のGTアプローチを研修委員会専門コアメンバーで取り組むことになった。

2. 専門コアメンバーは百武正嗣、岡田法悦、江夏亮、守谷京子、梅田福一郎、藤原勝、檀野竹美で、GTのレベルアップを検討して来た。昨年はアドヴァンスコース以降のスキルアッププログラム、新版ゲシュタルト療法テキストを作成した。今後は日本固有のアプローチの探求を試みることにする。

【内容】

1. 2019年4月7日(日)、東京銀座にて第1回日本のゲシュタルト療法研究会～エンプティチエア再発見・再構築～を開催した。参加者30名。

2. プログラム

(1)参加者同士のECについての意見交換(現状共有、疑問)。

(2)岡田法悦・江夏亮両講師による小講義(以下3と4)と実演。

3. 岡田法悦講師の考えるエンプティチエア

(1)日本には、敬語の使用や、名前より「先生」等の肩書で呼ぶなど固有の階層文化があり、クライアント(以下CI)がファシリテーター(以下Fa)に対し無意識に上下関係を想定することが多い。ECを使って「自己内対話」を促すと、Faに依存的になることなく、CIが「全ての答えが自分の中にある、実感が持てる。欧米では、FaとCIがファーストネームで呼び合うなど関係が対等になりやすいので、FaとCIの対話によって気づきを得る「関係対話療法」が生まれたと考える。

(2)「自己内対話」をファシリテートするのがECであるが、第三者との対話も自分の中に取り入れた「その人像、との関わりなので、結局は自己内対話と考える。自分の中で「その人像、との関係に変化が起きれば、その人本人との関係にも変化が起きる可能性が生まれる。

(3)CIが自己内対話に没頭し、Faの存在すら感じなくなるような状態が起きることがある。この状態は、Faが「無条件の肯定的関心」をもって温かく寄りそうプレゼンス(在り方)を持つときに実現する。Faが正誤・善悪の判断を持って関わったり、理論や経験に沿った「読み、を持って関わったり、自分の価値観や社会通念などのフィルターを通した関わりを持つことが、妨げになる。

4. 江夏亮講師の考えるエンプティチエア

(1)CIが気になる相手に対して自分に何が起きているのかを探索する。

⇒相手をECに置き、自分の「今ここ」を中間層・気持ち・身体感覚において探索する。必要があれば、それらを相手に表現することを促す。

(2)相手がどう思っているのかわからないので探索する。

⇒相手の椅子に座ってもらう。シャトルになる事も多い。

(3)CIのトップドッグがCI自身をどのように扱っているかを探索する。

⇒自分を椅子に置き、身体を使い椅子の自分に関わる。これまで心の中で抑圧してきた部分をCIの前のECに置いて椅子という現実の物を通じて存在させるという行為自体が、その部分の受容と考えられる。CIがある部分を心の中に気づいても、「今、ここ」で次の気持ちに移ってしまえば、その部分はCIの気づきの外に追いやられ、CIの囿として存在できない。しかしECという現実の物体を置くと、それは囿としてCIの眼前に存在し続ける。それは同時に、CIの心の中にも存在し続ける。ECをCIの目の前に存在させる事は、椅子はCIにとってニュートラルな器なのでそのニュートラル性がその部分の受容に役立つと考えられる。これは以下の(4)と(5)でも同様である。

(4)強迫的な行動、自分、気持ち、信念・考え方を持つに相応しい人格を作ってそれを外在化してECに置く。

⇒対話、ケアする。望ましい展開の想像(物語投影法)。(5)葛藤を扱う場合、二つのECを用意してシャトルになる事が多い。

⇒CIが自発的に気づきを得て変化するのを待つのが基本。促進のやり方として完全でなくても「両方の言い分のバランスを変える」、「両方を仲裁できる第3者の椅子を導入する」など。

5. 研究会で出た意見

(1)「様々な意見が出て非常に興味深かった。講師だけでなくGTのベテランの参加者もいて学びが広まった」と好評。

(2)主な疑問点。

①「ECを使う場合、使わない方がいい場合は？」

a)岡田「これは危ないと感じた時」

例えば、感情に呑み込まれて希死念慮が高まる可能性を感じる場合や、統合失調症や境界例のCIとのワーク。

b)江夏「CIの状況が重篤な時」(強くコンタクトが促進されるので。)

②結局は個人の「在り方」でやり方は変わってくるのではないか？

【結論】

GTのECはCIの自己内葛藤、対人葛藤に対して有効なアプローチである。今後の課題として①ECを使わない方がいい場合の更なる探索、②ファシリテーターの「在り方」との関係性を明確にすることがあげられる。

自死遺族へのグリーフケアとレジリエンス ゲシュタルト療法での実践

白坂 和美

ゲシュタルトネットワーク関西/GNK



⑥ 14日 77番教室
10:45~11:45

【問題・目的】

筆者はゲシュタルト療法(以下、GT)をグループセラピーで実践している。そこでは、自死遺族や、身近で大切な人、あるいはクライアントを自死で亡くした方がワークする機会が多い。これには、筆者自身が自死遺族であり、父を自死で、母を突然亡くしていることが関係していると思われる。また、そのことを公表していることも関係しているであろう。筆者は2009年からGTのトレーニングを受け始め、その中で父や母との対話を通して、父母のところに触れ、気持ちを知る機会を得た。自死遺族の多くは、親の死を語る事が出来ない。故人が亡くなったその時点で時計の針が止まっているかのよう。目撃した風景、葬儀の重い空気、故人への行き場のない問いかけ、手の感触、深い悲しみ、怒り。親の自死に関して容認、寛容、理解。様々な感情が行き場を失っている。未完了となった思いは、繊細な感覚として「からだ」に残ることがある。それは、フローズン・ファイアー(Pearls, JAGT テキスト新版P53)と呼ばれ、そのことにやさしく触れていき、表現することで時計の針が再び動きだし、「今、ここ」の時間に生きることが出来るのである。本研究では、自死遺族に対しGTを実践した事例を報告し、悲嘆への軽減や、亡き大切な人とつながる生き方を通して、自分自身の人生を生きるレジリエンスについて考察する。本研究で取り上げる事例は、①自死遺族である筆者自身の体験、②個人セッションの事例、③グループセッションの事例である。

■事例①:筆者のGTグループセッション(毎月2日3年間、他再決断療法など)

イ)夢のワーク:従姉の死の夢。登場人物、叔父、叔母、従姉妹の3人。三角形に3人は居て、従姉は死に横たわり、叔母は泣き、叔父は気が狂れている様子。そこで、一番気になる叔父になってみる。その時「死が受け入れられない」という言葉がでた。筆者は「父の死が受け入れられない」ことに気づいた。その頃の筆者には、体が瞬間的に重くなるという現象が起こっていた。自死遺族の著書を読みいきなり体が落ちる。一人になると涙が溢れる。大切な人は突然いなくなるなど、固着したゲシュタルトは、自死遺族には見られることがある。(「自殺って言えなかった」自死遺児編集委員会・あしなが育英会 サンマーク文庫)。

ロ)父になってみる:エンプティチエアにて、父との対話。筆者は「なんで死んだん。」の問いをぶつける。父は「お父ちゃんも一生懸命生きて。ビックリさせて悪かった」と言い、筆者は父からの思いと謝罪を受け取った。

ハ)不思議な体験についてのワーク:地方に行くと2度程、見知らぬ男女からの贈り物をもらう。2度とも女性から「あんた、あれ渡し」と男性に伝え、男性から筆者に飴が手渡されるのだった。筆者は両親が見守ってくれているかのように解釈していた。ワークにて父、母、筆者の3人の椅子を三角形に置く。一人ひとりになってみた。「あん

た、あれ渡し」の言葉で、父の席に移った時に、筆者へ父からの忘れ物「言葉(遺書)」「飴=愛情」が届いたワークであった。

二)母になってみる:心臓発作で亡くなった母との対面は死の2日後警察だった。引き出しの様な霊安棚から引きだされてきた母。その遺体の姿が固着したゲシュタルトになっていつも中間領域に現れるのだった。そして、呼吸が止まりまた悲しみを固定化してしまう。セッション中に、息が止まっていることを指摘されそこからゆっくり息をすることができた。そこから、空椅子の母の席に移り、母になってみた。不思議と横たわる母の姿ではなく、筆者に向かって話しかけている母だった。亡くなった母ではなく、息をしている。母「私は好きに生きた。かずも(筆者)、好きに生きてるんやな。」筆者「ほんまに、離婚しちゃったし。」短い会話だったが、霊安室から「今、ここ」に戻ることができた。

■事例②:個人セッション:介護職20代女性Aさん。面接8回(発表承諾有り)

主訴:一年前に父親を自死で亡くし、時々、体が重くなり人と関わるのがつらい。亡くなった月が近づくことからだしがしんどくなる。1回目から8回目までの経過。

面接経過:傾聴にのみならず、父親をエンプティチエアに置いて対話を試みる。そして、父親の椅子に座り、なって

みることで、娘への父親の未完了や、娘にどう生きて欲しいかを伝えることができた。当初は中間領域が父親で一杯だったものが、回数を重ねることで友人と遊びにいくことの話に変わっていった。寂しさは残るも、イメージで父への思いを神社に預け、自分の幸せを祈れるようになっていった。

■事例③：ゲシュタルトグループセッション：40代女性Bさん。(発表承諾有り)

亡き弟との再会：Bは40代初めに弟(当時30代後半)を自死で亡くしていた。うつであった弟とは、なかなか会うことが出来ずにいた。そのまま亡くなり葬儀での対面となった。最期を看取ることが出来なかった。そのことから、仲良く遊んだ弟の幼い頃の姿で記憶が止まっている。亡くなる前に触れることも出来なかったため、目の前に人が存在する感覚も覚束ないようであった。ワークにて弟との再会を試みた。まず、セラピストの全身に触れる、そのことで人が目の前に存在することを自覚できた。次に弟を参加者から選ぶ。弟役に触れる(顔、からだ、手)その

瞬間、Bは「あ！大きくなったね。こんなに大きくなってたんだね。」と弟の成長していた姿を感じることができた。そしれを味わうことが出来た。

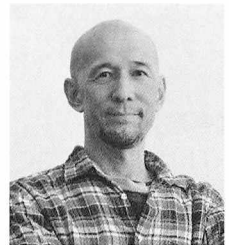
【考察】

傾聴だけの自助グループやカウンセリングにおいて、最低限語れる場があることは重要である。話を聴いてもらうことでこころが軽くなる。ただ、レジリエンスを獲得するためにはセラピストやグループとの関係性、又は故人との関わりが重要である。自分以外の世界と、考えや感じ方を交差させ、クリエイトされた世界に触れる必要がある。筆者の事例では、セッション(八)の後にからだの重みを感じることは無くなり、自死遺族のセッションを行なうことが出来るようになった。Aの事例では、回を重ねるごとに自分の楽しみについて語ることが出来ている。Bの事例において、凍り付いた弟との時間を「今、ここ」で体験することで、未完了を解放し時間が進み、成長した弟の死を実感し、これによって自分の人生を生きるきっかけが得られたからである。 以上

複雑性PTSD対象とした ゲシュタルト療法の臨床的な拡張の試み

明石 郁生

家族とAC研究室 代表/湘南 統合的グループワーク研究会 代表 臨床心理士



⑦ 14日 78番教室
10:45~11:45

【目的】

従来、複雑性PTSD(目に見えづらいトラウマ:過度な期待や干渉、情緒的な無関心、主体の搾取など)やアダルト・チルドレンという概念における、複雑で特徴的なパーソナリティ支障、対人関係の歪みや様々なアディクションなどの臨床については、主に精神力動的療法を基礎とした個人カウンセリングが主体であったが、近年では集団心理療法のアプローチが実績をあげていることから、トラウマを対象としたゲシュタルト療法(以下:GT)の臨床的な拡張の実施による効果検証に注目が集まっている。

本研究では、複雑性PTSDを抱える女性クライアント(以下:CL)に対してGTの臨床的な拡張の試みによる効果を検討した。

【ゲシュタルト療法の臨床的な拡張】

トラウマケアにおける精神力動的療法は、セラピスト(以下:Th)とCLの相互関係性を用いて一定のパーソナリ

ティの変容を目指す。(マックウイリアムズ, 2005) 本研究では複雑性PTSDを対象としたGTの臨床的な拡張因子として「見立て」、「相関的・間主観的転移」、「ドリーム

ボディ」(ミンデル, 1994)の3つを挙げて実践と検証を試みた。

・「見立て」とは, Thを含めた多くの人々にとって苦痛や苦悩を単純化されたり, 病的と判断されたりラベルを貼られたりするものと誤解されている言葉であるが, Thにとって重要なのは, よりCLが治癒される機会が増えるよう「見立て」をあつかう姿勢を持つことである。(マックウイリアムズ, 2005)

・「相関的・間主観的転移」とは, セラピー関係における転移と逆転移は相互作用に変化するものであり, Thの逆転移とCLの変化は等価であるという精神力動的な概念である。(カプラン, 2016)トラウマからの回復プロセスとは, ThとCLとの相互関係および共同作業において起こる。(ヴァン・デア・コーク, 2016)

・「ドリームボディ」とは, 対人関係の問題, 身体症状, 繰り返し見る夢などを自分自身にならうとする力, 生命の流れと見る概念である。(ミンデル, 2008)トラウマ反応を単に治癒する対象と捉えるのではなく, 精神的成長の過程において余儀なくされる自己変容のための心身相関的な課題ととらえワークをすすめることを可能にする。

【複雑性PTSDを抱えるCLとのワークの事例: Z: クライアント, Th: セラピスト】

Zさんは, 主体の搾取, 暴力により原家族を離れる。自分との関係, 対人関係に支障を抱えている女性。専門学校を卒業後企業に勤務。2014年にアダルト・チルドレンという概念を通して筆者の研究室を訪れる。「研究発表」ではワークの逐語を報告する。

【考察】

・Thは, 「いま, ここ」で内在化体験を促す伝統的なGTアプローチに加えて, 場においてThとCLの関係性に起こる, 見立て, 間主観的転移, ドリームボディを臨床的な拡張因子として織り込んだ。

・全体的には「一昨日のひとりで行ったワーク」の残像から「昨日, 駅であった彼女」への投影, Thに向けられた怒り, 自身への破壊的認知, 解離症状, 4~5歳に退行した女の子, 小鳥のイメージを「いま, ここ」で一連のドリームボディの流れと捉えた。

・その結果, Thに向けられたトラウマ反応, 例えば, 飲み込まれ恐怖を処理しようと対処する怒り, 見捨てられる不安, 孤立感情に対処するための自己破壊的認知, 心身防衛反応としての解離, 呼吸機能の停止を, Thは「あなたの問題」の洞察支持にとどめずに関係性における相互作用として捉え, Th自身の内面に起こったfeeling attitudeを用いて共にreprocess(再処理, 上書き)する時間経過を可能にした。

・CLにとってこの体験は, 雑性PTSDにともなう反応パターン(恐怖感情, 解離体験など)の修正体験につながり, 自身の内面に在るresilience(回復する力)を育てる機会を開くと考えられる。また, ワーク終了時にCL自ら浮上したアイデア(新たな自己の出現をスピリチュアルな次元である小鳥の視点(観察自我))で祝う行動は, CLの未来への創造力と精神的成長を示しているのではないか。

・Zさんは精神力動的カウンセリングとGTの臨床的な拡張実践の併用を継続し自己の探求に取り組んでいる。本研究の試みはパーソナリティの変容に一定の効果があったと考えられる。

【結論, 今後の課題】

・GTの臨床的な拡張の試みは, 複雑性PTSD, アダルト・チルドレン, 境界例パーソナリティなどの用語にとらわれることなく, 新たな自己の芽生え, 自分自身を含めた対人関係に変容を促す治癒効果が見込まれた。

・トラウマケアにおけるGTの臨床的な拡張においては報告が少なく, 効果の精査に関しては事例検討研究会などの研鑽機会の創出が今後の課題として挙げられる。

・本研究では, 複雑性PTSDを抱えるCLに対してパーソナリティ変容を視野に入れたセラピーの可能性が示唆された。

【文献】

ベッセル・ヴァン・デア・コーク著, 柴田訳: 身体はトラウマを記録する 脳・心・体のつながりと回復のための手法, シナノパブリッシングプレス, 2016

カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5診断基準の臨床への展開 第3版 メディカルサイエンスイン ターナショナル, 2016

ナンシー・マックウイリアムズ著, 成田他訳: パーソナリティ障害の診断と治療, 創元社, 2005

アーノルド・ミンデル著, 高岡他訳: ドリームボディ・ワーク, 春秋社, 1994

15日(午前の部) ワークショップ 9:30~12:00

講師:①津田氏、②タリア氏、③藤本氏は、13:30~16:00に行われる
午後の部も同教室を担当します。

⑨津田氏、⑩タリア氏、⑪藤本氏として掲載。内容はP6~をご確認ください。

トラウマセラピーとしてのゲシュタルト療法の可能性 ~ポリヴェーガル理論との対比から~

【招聘講師講座】 津田 真人 ※詳細はP9

① 71番教室

ゲシュタルト療法を用いたトラウマケアの実際

【招聘講師WS】 タリア・バーヨセフ・レヴィン ※詳細はP6

② 76番教室

BCT(ボディ・コネクト・セラピー)入門ワークショップ

【招聘講師WS】 藤本 昌樹 ※詳細はP9

③ 72番教室

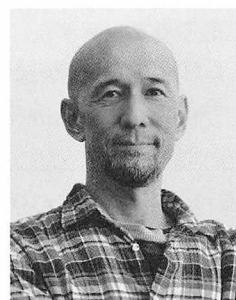
複雑性PTSDを対象とした臨床実践

-ゲシュタルト療法の統合的な拡張例, ドリームボディワークショップ-

明石 郁生

複雑性PTSDによる支障は、原家族での対人関係の歪からつくられていると仮説します。
対人関係(自分との関係を含む)問題、依存症など「頭ではわかっているけれど変えられない」
という特徴があげられます。

「ドリームボディ」とは、自分自身になろうとする力、自己治癒の流れです。(A,ミンデル,
2008) 繰り返し見る夢、怖い夢、セクシーな夢、身体症状などが含まれます。統合へ向か
う機会を創るアートとしてのワーク体験をご提案できればと思います。



④ 73番教室

CSPP カリフォルニア臨床心理大学院修了 臨床心理士/セラピスト, 神奈川県茅ヶ崎市 心理教育相談室 家族とAC
研究室代表, 湘南 統合的グループワーク研究会代表, カウンセラーのマーケティング研究会代表, ACを主な対象とした
複雑性PTSD, パーソナリティ変容に取り組み, 精神力動的療法, 家族療法, ゲシュタルト療法, プロセスワーク, トランス
パーソナル心理学等の理論基盤を統合的に用いる臨床実践研究をしている。また, 企業において, 経営者カウンセリング,
チーム・組織・関係性向上ワーク, 援助職のマインドフルネスワークなどの研修, ワールドワークを実施している。

ボディサイコセラピー(心・身体・神経系・成育歴)

賀戸 若江

身体の硬直と無力化はどうして起こるのか。感情の鈍磨とはどういうことか。
トラウマにより神経系はどのような動きになるのか。
成育歴が今の心や身体神経系に及ぼしていることは・・・解除するには・・・
成育歴でのトラウマが、心、身体、神経系にどう影響を与えるかを解説しながら、
エクササイズを通して体感していただきます。



⑤ 74番教室

都市銀行勤務、保育園勤務、漢方クリニック勤務、大手電器メーカー人材育成などを経て、心理療法の道へ進む。
バイオシンセシストレーニング(5年)修了、マイクロカウンセリング修了、インナーチャイルド修了、ゲシュタルト療法ト
レーニング(2年)修了、SE™上級トレーニング修了、SEP (Somatic Experiencing Practitioner) 2018年4
月取得、現在は、大阪で、ボディサイコセラピー、インナーチャイルドヒーリング、ゲシュタルト療法、SE™、プレスワーク、
ドリームワークなどグループワークや個人セッションに携わっている。

プレイフル・ワークショップ

～からだをうごかしてあそぼう～

梅村 朋子/齋藤 睦子/竹山 美智子/筒井 優介



梅村

竹山

筒井

プレイフル… '遊ぶ' という要素の中にこそ、喜びに溢れ、
リラックスして自己解放を促す効果が見られることは、ま
まあると思われれます。

遊びはまた、子どもにとっても大人にとっても、セラピー
的でもあります。

GNKメンバーが提供するワークショップでは、遊びながら
今ここを体感し、表現していく時間になればと思っています。

⑥ 75番教室

梅村 朋子:認定心理カウンセラー。ボイスアーティスト。パステル和アートインストラクター。在野で、カウンセリング
ルーム樹喜(きき)を設立後、個人カウンセリングの他、声遊び、息遊びを通して心身の健康をはかる【ボイスアート】の
ワークショップ、あるいはパステルを使った絵画によるワークショップなどを提供している。ゲシュタルト・ネットワーク
関西(GNK)にてゲシュタルト療法のトレーニングを積んでいる途中。

齋藤 睦子:臨床心理士・公認心理師 教育学修士。現在、兵庫教育大学大学院でトラウマケアやエンパワメントを中心と
した被害者支援臨床を実践中。ゲシュタルト・ネットワーク関西でゲシュタルト療法の体験学習を通し、ソマティックアプ
ローチ臨床における人間理解の深さやワーク展開の早さに新鮮な驚きを覚えている。専門分野はレジリエンス、ストレス
マネジメント。趣味は旅行と読書。

竹山 美智子:「ゲシュタルトは、私にとって人生だから」 普段はOLやってます。現在、ゲシュタルト・ネットワーク関西
でのトレーニングを通し、自己研鑽中。

筒井 優介:P23午後の部、個人WS紹介参照のこと。

夢のワークの質疑応答と実践

守谷 京子



⑦ 77番教室

リッキー・リビングストーン先生から直伝された「夢のワーク」のノウハウを提供。様々なメッセージを持つ『夢』を通し、気づいていない自分を探すワークをどのようにセラピーしていくのか、理論と実践を展開。夢の誘い方、夢日記のつけ方、夢孵化の仕方、夢のワークの捉え方を数種類紹介。セラピーを使い、夢を再体験し、自身への全体性へと近づいていくプロセスをいかにサポートしていくか、体現してみましょう。参加者の要望重視。

1985年から10年間、連日、日本にゲシュタルトセラピーをもたらしたリッキー先生の元でトレーニングを積む。1989年にIPGを設立し今に至る。

複雑なトラウマを抱えている人へワークする上での留意点 ～ゲシュタルト療法家がトラウマケアを行う場合に気をつけること～

江夏 亮



⑧ 78番教室

ゲシュタルト療法家がトラウマケアを行う場合の留意点は、大まかに三つあります。トラウマケアを行えるかの判断、セッション中に起こりうる事、セッション後に起こりうる事です。私には関係ないと考えている人には、未完了の問題を扱うときの留意点にも通じる事をお伝えしておきます。また、未完了の問題を扱っている内に、計らずもトラウマが浮上する事もあります。この意味でゲシュタルト療法家にとって、必須の知識です。

江夏心の健康相談室代表、公認心理師、臨床心理士、日本ゲシュタルト療法学会スーパーバイザー

memo.

15日(午後の部) ワークショップ 13:30~16:00

トラウマセラピーとしての
ゲシュタルト療法の可能性
~ポリヴェーガル理論との対比から~

【招聘講師講座】津田 真人

⑨ 71番教室 ※詳細はP9

ゲシュタルト療法を用いた
トラウマケアの実際

【招聘講師WS】
タリア・パーヨセフ・レヴィン

⑩ 76番教室 ※詳細はP6

BCT(ボディ・コネクト・セラピー)
入門ワークショップ

【招聘講師WS】藤本 昌樹

⑪ 72番教室 ※詳細はP9

誰でもどこでもできる 体の自立サポート体験ワークショップ

ジャクリーン・ヒルトン

まずは自分自身を知り、自分のトラウマと向き合うことが大切です。そうすることで、クライアントに真に寄り添うことができます。ゲシュタルトセラピストは自己研鑽を積み、自分を知り続ける訓練を受けています。これらの経験が基になってクライアントに歩み寄り、信頼関係を築き、セラピーの成功を左右します。

●心と体のつながりの実験 ●交感神経と副交感神経の調整方法

●トラウマサポートのデモンストレーション後、ペアで実践

最後に、ワークショップを通して体に起こった変化を中心にそれぞれの体験を共有します。



⑫ 73番教室

シドニー大学で日本語の学位を習得。シドニーのヨガスクールで解剖学、生理学などを学び、ヨガ教師をとめる。ゲシュタルトセラピーシドニーでゲシュタルト療法修士課程修了。日本においては、金沢市の国際交流コーディネーター、フリー通訳者、英語教師などとして活躍。タイ、オーストラリアなどにおいて、ヨガ、英語、日本語などの教師をつとめ、ゲシュタルトカウンセラー、グループ・ファシリテーターとしても活躍する。

選びの気づき、広がる世界

内海 まゆみ/佐敷 直子/永井 美雪/中野 英子

目の前に4人のファシリが立ち現れた時、その瞬間から、あなたの中で、何が始まるのでしょうか？その時あなたは何を体験しているのでしょうか？

日常何気なく、私たちは出会い、お互いの間に何かが起こり、選び合います。

選択の体験を通じてゲシュタルトを試みます。

話し合いの最中、メンバーの1人がその時出てきたことを文章にしました。私たちが日頃実践していることです。

「気づく、選ぶ、受け容れる。気づく、ゆるす、そのまま、そのまま。

気づく、ゆるめる、気づく、ゆるめる。気づく、あるもの。気づく、ないもの。

わたしの内側、わたしの外側。触れる、繋げる、切り離す。」



内海

佐敷



永井

中野

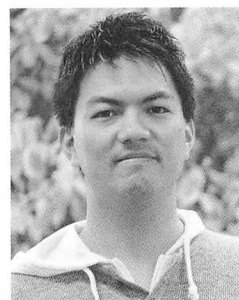
⑬ 74番教室

全員福岡一期、卒業生。それぞれの場所で活動中
内海まゆみ、永井美雪、佐敷直子、中野英子

夢PCAGIP ～グループで一つの夢を味わう～

筒井 優介

筒井が考案・実践している夢PCAGIP(ゆめピカジップ)を体験します。
夢PCAGIPとは、小グループで実施するグループワークで、夢提供者が自分の夢の意味を見いだすことを援助するワークです。夢提供者がグループメンバーの質問や追体験、問いかけなどから夢を理解し、夢の持つ新たな側面に気づくことがワークの目的です。



⑭ 75番教室

臨床心理士、修士(専門職)。現在、関西大学大学院心理学研究科博士課程後期課程(池見研究室)在籍。スクールカウンセラーとして活動するほか、教職員や企業のメンタルヘルスに関する相談・研修を実施している。フォーカシングに関する研究をする傍ら、ゲシュタルト・ネットワーク関西(GNK)にてゲシュタルト療法のトレーニングを積んでおり、昨年より沖縄でフォーカシングやゲシュタルト療法など人間性心理学に関する学びの場を提供するカウンセリングオフィスしまんちゅルームを設立した。

家族のシステムにおけるトラウマからの解放と癒し

藤井 さやか/三上 道代

個人が抱える問題は、個人が属する「家族システム」の中で生じている滞り・障害・もつれによって引き起こされている可能性があります。家族の中で大きなトラウマともいえる出来事がかつて起きていて、未完了になっている場合、後から生まれた世代に大きな影響を及ぼすこともあります。ファミリー・コンステレーションは、そのもつれを探し出し、表面化させることで、家族システムに和解をもたらす、癒し、気づきをもたらします。



藤井



三上

⑮ 77番教室

藤井 さやか: カウンセリングルーム「親と子のおひさまギフト」を主宰。産業カウンセラー、キャリア・コンサルタント、ゲシュタルトセラピスト、ファミリー・コンステレーションファシリテーター。子どもの不登校をきっかけに様々な心理療法に出会う。2009年より親子、夫婦、家族のお悩みを抱えた方のサポートを中心に活動。

三上 道代: カウンセリングルーム「心の扉」を開業する傍ら、スクールカウンセラー、企業の産業カウンセラー、臨床心理士、家族相談士、公認心理師、ゲシュタルトセラピスト、ファミリー・コンステレーションファシリテーターとして活躍。30年近く前の人生の底つき体験を契機に自分と向きあう必要を感じ様々な心理療法に出会う。20年の臨床経験、相談件数1万件以上。

memo.

前理事長・現理事長あいさつ



新元号の名前が「令和」と決まった。私は昭和、平成、令和と3つの時代を生きることになる。しかし私のアイデンティティは最初の昭和である。いくら時代が変わっても最初に刷り込まれた時代の名前しか身体に感覚として残っていない。

ゲシュタルトも同じである。ポーラ・バトム博士のゲシュタルトに初めて出会った時に、「自分のやりたいことを目の前で展開している人がいる」と思った。何年か後に、そのことをポーラに話したところ「私もPerlsに会った時に、『彼は人生の何かを知っている』と思った」ことを教えてくれた。

2010年(平成22年)1月24日に日本ゲシュタルト療法学会を設立し、今年で10周年を迎えるが、いつも私の原動力になっていたのは、あの時の驚きと出会いの感動である。設立に参加した1人1人も同じようなゲシュタルトの出会い、驚き、感動、の体験があったように思われる。

最初の理事(評議員)になった人たちは、飲み会の席で「やろうぜ」とビールを掲げた場面に同席していた人たち全員であった。たまたまそこになかった人は悔しがっていた。また評議員を作らなかったのは学術顧問の岡本茂樹先生と話して、あまり意味がないのならゲシュタルト的な組織にすると決めたのだ。そんな意味でも規約や選挙など必要としなかったのだ。

設立の前年にはAAGTの設立者の一人であるアンセル博士、エサレンの所長ゴードン博士を招待した。第1回目の大会は横浜開港記念会館で行った。その時に学術発表とワークショップを同じ時間に開催したがほとんどの参加者はワークショップの方に行ってしまった。広いホールで数人しかいない学術発表の会場では岡本先生が

激怒していた風景を覚えている。それから1月はワークショップ大会、7月は学術大会と2本立て方式で開催するようにした。今となっては一昔のことになる。

ある時に大会を沖縄でやりたくて石垣島で海の広がる小さなホテルを見つけた。ホテルも新たに改装したばかりなので喜んで予約をしてくれた。ところが一方的に解約された。理由を聞いてもはっきり答えない。あきらめて福山の仙酔島で開催した。後で分かったことは、石垣島のホテルは、オーム真理教が研修で使っていて、サリン事件を起こしたためにそれ以降はホテルが客を集客できなくなっただけだ。JAGTも怪しい団体に映ったようだった。

5周年記念では新潟の長岡の温泉ホテルで開催した。アンセル博士、ゴードン博士、モーガン氏を招待して、飲みや歌や温泉だと騒いだ記憶があるが、学会初の赤字大会であった。もちろん5周年記念なのだからそれでよかったと思っている。

学会を設立するに至っては、奈良の病院にいた西精神科医がゲシュタルトを気に入ってくれて学会を設立するなら臨床をサポートしてくれると言って顧問になってくれた。福山のトレーニングにも参加してくれた。熊本では岡本茂樹先生と飲んで意気投合して学術的な顧問になってくれた。次の年に彼は立命館大学の教授になり、こんなレベルでは立命館で大会を開けないと彼の怒りは続いていた。もっとアカデミックのレベルを上げろと言われた。残念ながらお二人は他界された。仙台大会ではAAGT大会で何回もお会いしたタリア博士を招待した。トラウマの基調講演をしてもらう。10周年の大会をお二人が見たらきっと満足されてくれると思う。

ゲシュタルト療法学会も何とか10年間は生き延びてきた。その原動力は会員のみなが初めてゲシュタルトに出会った時の自身の驚きと感動だと思う。今後もファシリテーターになっていく人たちに自身の喜びを伝えて欲しい。俺はまだ当分死なないけどね。



2010年7月 ゲシュタルト大会:岡本茂樹先生

百武正嗣

前会長 任期 2010年～2016年

2011.10 第2回 学術大会
大阪
'16年 第7回まで
毎年開催(東京・横浜・京都)

2011.7 学会誌創刊
第2回 WS大会
泉水島(広島)
'16年 第6回まで 毎年開催
(東京・鹿児島・新潟・大阪)

2011.4 第8回
ファシリテーター集会
東京
'16年 まで年2回程度
第21回まで開催

2010.7 第1回 大会 横浜

2010.1.23～1.24 日本ゲシュタルト療法学会
JAGT創設
日本ゲシュタルト療法学会
発起人集会

2003.7 第1回
ファシリテーター集会
東京
'09年 まで毎年開催
第6回は屋久島(鹿児島)

室城 隆之

10周年記念大会によせて

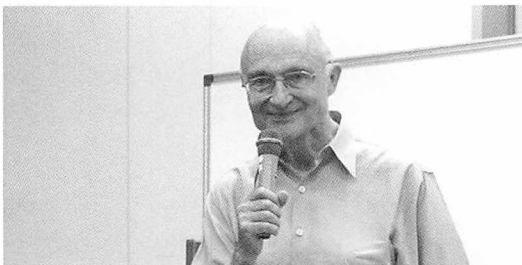
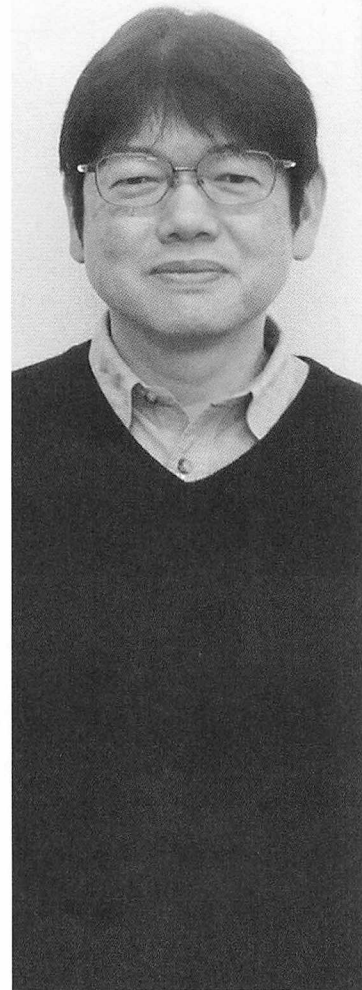
この度、日本ゲシュタルト療法学会10周年記念大会を杜の都仙台の地で開催できることを、心より嬉しく思います。日本ゲシュタルト療法学会は、日本におけるゲシュタルト療法の普及とゲシュタルト療法を実施できるファシリテーターの育成を目的として、2010年1月24日に設立されました。学会設立に当たっては、2003年7月に行われた第1回全国ファシリテーター集会以降7年の準備期間を経ており、前理事長の百武正嗣氏をはじめとして、多くの方々のご努力がありました。私自身は、2012年に学会員となり、第3回学術大会から参加していますが、まさに本学会の活動によってゲシュタルト療法のすばらしさに触れ、学会のトレーニング・コースでファシリテーターとしての訓練を受け、現在はファシリテーターとして活動しています。今後も、多くの方々が私のように、本学会の活動に触れることによって、ゲシュタルト療法の魅力を感じていただけることを願っております。

さて、2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。仙台はこの震災により、最も大きな被害を受けた地域の1つでした。そして、現在でも多くの方々が、この震災の被害を抱えながら生活しています。このようなトラウマ(心的外傷体験)に対して、いったい私たちに何ができるのでしょうか。

今回の大会のテーマは、「トラウマケアに果たすゲシュタルト療法の役割」です。ゲシュタルト療法では、自分の心の中で起きていることについて、ただそれに気づき、受け入れることを援助します。受け入れがたい現実を前にして、自分の心の中に生じる怒り、悲しみ、悔しさ、絶望、無力感などに気づき、それを受け入れていくことは、決してたやすいことではありません。ゲシュタルト療法がこのようなトラウマを抱えた人々に、どのように寄り添っていくことができるのか、今回の大会を通じて学ぶことができればと思っています。

ところで、10周年ということですが、人生にたとえると、10歳と言えば小学校の高学年になったばかりです。そう考えると、日本ゲシュタルト療法学会も、まだまだ思春期の入口といったところでしょう。この10年間に築き上げてきたものを大切にしながらも、自分(日本ゲシュタルト療法学会)は何者か、どこに向かっていくのかを問い続けながら、成長し続けていきたいと思っています。皆様には、今後も本学会に対し、積極的なご参加そしてご支援をよろしく願いたします。

室城 隆之



2014年7月 学術大会・京都市
パレット博士(イギリス)



2015年1月 WS大会・新潟県長岡
左から：アンセル博士，ゴードン博士，モーガン氏

2014.7

東京 第5回 学術大会

2014.9

海外研修
工サレン研究所

2016.7 / 11

第1回
トレーナー審査会・東京
19年まで東京・大阪にて
年2回(第7回)まで開催

第2回
トレーナー審査会・大阪

2017.7

第8回
学術大会 & WS大会
流山市(千葉)

2018.7

第9回
学術大会 & WS大会
篠栗町(福岡)

2019.7.13~15

第10回
学術・WS記念大会
仙台(宮城)



団体紹介

各地域で活動中のゲシュタルト療法学会所属団体を紹介いたします。

お近くの地域, または団体同士の交流, CFO練習会や

オープンワークショップの問い合わせなど

様々な活動にご活用ください。

電話番号掲載団体で
ワーク中などで電話が取れない
場合があります。
時間を置いてかけなおすか
メールにてお問い合わせください!





団体名: ゲシュタルト.アート.フォーカシングネット(GAFnet)

代表者: 有村 凜 (ありむら りん)

TEL: 080-3375-6349

MAIL: gestalt.kagoshima.2014@gmail.com

WEB: <https://www.gaf-gestalt.com/>



私たち, GAF netの仲間は, 今から15年前にゲシュタルト療法に出会い, 2004年, 2005年にゲシュタルト療法トレーニングコースを修了しました。そして, ゲシュタルト療法の日本の第一人者である百武氏に師事し, その他様々なファシリテーターからの指導を受けています。変わらないと思っていたことが変わり, 人生を豊かなものにしてくれました。

こんな体験をたくさんの方と共有したいと6名の仲間と共に立ち上げたGAF netです。

ゲシュタルト療法, フォーカシング, アートなどを通してここでの気づきを深めます。GAFnet では, ゲシュタルト療法やフォーカシング指向心理療法などの心理療法を通して, 人間関係にお悩みの方, 自己成長や自分探しをしたい方などのお手伝いをしています。

GAFnetにはフォーカシングインスティテュート認定のフォーカシングトレーナー資格を有するメンバーも2名おり, フォーカシング指向ゲシュタルト療法というゲシュタルト療法とフォーカシングを統合したアプローチが可能です。ゲシュタルト療法以上のより深い気づきによってクライアントをサポートしていきます。そして, ゲシュタルト, フォーカシング共に15年以上の経験あるメンバーがクリニックや保健師, 企業において活躍しています。これからも鹿児島からゲシュタルト療法, フォーカシングを発信していきます。



団体名: GNF ゲシュタルトネットワーク福岡

代表者: 中西 徹 (なかにし とおる)/西野 珠美 (にし の たまみ)

MAIL: gnf.gestalt.fukuoka@gmail.com

WEB: <https://www.facebook.com/GNF.gestalt/>



福岡・九州にゲシュタルトを広めたい!!と2009年から活動を始め, あっという間に10年が経っていました。

ゲシュタルトを通じて出逢う方々は, なんてユニークで, 素敵な変人ばかりなのでしょう!?

まだまだ飽きることなく, 場を創り続けていきますよ~。

ゲシュタルト, 大好き♡初心者OK

少人数でゆっくりゲシュタルトに触れていく「1Dayゲシュタルトグループセラピー体験講座」素敵なファシリテーターを招いての「招待講師ゲシュタルトワークショップ」日本ゲシュタルト療法学会認定「ゲシュタルト療法トレーニングコース」自分のペースで進めていく「個人ゲシュタルトセラピー」この4つを開催。ゲシュタルトで, オリジナルで素敵な, ユニークな変人になっていきましょう!!

ツールちゃんとゆかいな仲間たち。
トレーニング修了後はそれぞれが
それぞれのゲシュタルトを,
それぞれの地域で
始めていっています。
もっと広げられ~!! ゲシュタルト♡



団体名: HCC:(株)東中国カウンセリングセンター

代表者: 馬屋原 眞美子 (うまやはら まみこ)

TEL: 084-973-1737

MAIL: h-c-c@hotmail.co.jp

WEB: http://h-c-c.main.jp



JAGT創立以前, 2006年より継続的にゲシュタルト心理学・ワークショップを展開させています。心身一如の観点から感情と身体反応の不可分な点に焦点を当てると共に, 感情を起こさせる認知, 思考の部分も大切に扱っています。セルフメンタル管理の為に理論はきちんと押さえておく必要があるとの考えから, 自分の行ったワークが何によって体感が深まったのかを知るためにも, HCCでは, ゲシュタルト心理学の理論背景も大事に扱っています。個人でセルフゲシュタルトが出来るようになる為のプログラム構成で進めています。安心安全な「場」の確保に努め, オープンマインドで各自が自身の自己ゲシュタルトを進めると同時に, その場で見守る仲間たちにも共感的に生じる無意識からの連鎖がより大きなゲシュタルトとして気づきを深めています。併行的に実施しているFGG(福山ゲシュタルトグループ)では, ファシリテーターのトレーニングにも力を入れています。

中国地方で継続的にゲシュタルトを学ぶ場は, 今のところHCC:東中国カウンセリングセンターだけである為, 現在, 中国5県四国4県からの参加者の方々に楽しく明るく前向きに開催が続いています。とにかく皆さん熱心です。誠実です。

HCCは, そもそもがカウンセリングセンターですからゲシュタルトだけに特化しているわけではありませんが, クライアントにとって有効なアプローチの一環にゲシュタルト療法は大きく貢献しています。



団体名: アウェアネスみどり会

代表者: 平松 みどり (ひらまつ みどり)

MAIL: y3tadasi3@yahoo.co.jp

WEB: http://awarenessmidorikai.web.fc2.com/



「アウェアネスみどり会」とは, 一人ひとりが自分自身を大切に, 本当に望んでいる自分の人生や, 心のサインに気づく(Awareness)ことを, ゲシュタルト療法, 交流分析, 家族療法などをおして共に学んでいくことを旨として名付けました。

「ベーシック, アドバンスコース」は勿論のこと, 「理論 & work」「オープンセミナー」「体験・入門講座」などのゲシュタルト療法や, 交流分析の講座, 家族療法の講座を毎年行っています。

また, 個人カウンセリングも様々なスタイルで実施しています。

そして, 心理の現場で働いている方にも「こんな時はどうするの?」と思った時, 安心してゲシュタルトを勉強できる場を作っています。

「ゲシュタルト入門」の講座もあり, また今後「CFOカンファレンス」を予定しています。年の途中からでも遠慮なくお問い合わせください。

F・パールズの愛弟子, ポーラ・バトム女史によるワークショップを1992年から毎年開き, 関西では女史による初めての養成講座を2000年に開催。その後, 百武氏によるワークショップを引き続き信貴山というお寺で開催していました。その間2002年に大阪京橋で拠点を設け, 現在まで活動を続けています。

コースの年間スケジュールはWEBページ内をご確認ください。



団体名: GNK(ゲシュタルトネットワーク関西)

代表者: 白坂 和美 (しらさか かずみ)

TEL: 070-6548-2406

MAIL: WEBのお問い合わせフォームよりアクセス
下さい。

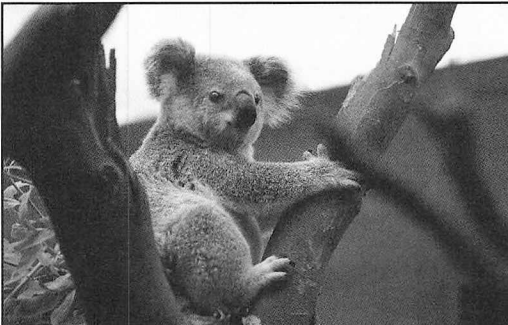
WEB: <http://gnk.jp/>



ほんわか♪ほんわか(^_^♪ほんわか♪ほんわか♪ほんわか♪ほんわか♪ほんわか, ほん
(^^♪。ごめんやっしや~, おくれやっしや~, ごめんやっしや~。)ドター
(全員こける)。ここからのれんを開けて人生劇場が始まる。このように関
西でトレーニングコースを始めて8年目になります。大阪のお笑い文化を
大切にしています。ずっこけること, 失敗すること, 泣くこと, 笑うこと, 怒
ること, 笑かすこと。吉本新喜劇のような人情あふれる, 人生劇場。「人生
近くでみれば悲劇, 遠くからみれば喜劇」Byチャーリー・チャップリン。も
ちろん喜劇で終わらないこともあるけれど, そのことを丁寧に自分自身
が仲間とともに分かち合うそんな「空間」になればいいと思います。
「我々は堂々と失敗しなければならない。」By フリッツ・パールズ。フォー
カシング, センサリーアウェアネス, プレイバック・シアター, フェルデンクラ
イスなど, 実存的現象学を取り入れ, トレーニングに活かしています。

2020年7月23日(プレ大会)・24日~
26日(本大会)(木祝~日)の4日間は,
関西メンバーが中心となって, 和歌山
県, 高野山大学で第11回目の大会を開
催します。真言密教の総本山である世界
遺産に登録されている高野山。空海が
瞑想をし続けていると言われるその土
地で, 何が起こるやら。

実存主義×空海×パールズのコラボレ
ーションで, ゲシュタルトを超えた先に在
る全体性を, 統合を。どうぞ, 今から楽
しみにしててください。高野山の町並
みも川も木々もお寺も崇高で日常から
かけ離れた異次元な空間です。



団体名: ゲシュタルト名古屋

代表者: 安田 淑恵 (やすだ よしえ)

MAIL: gestalt758@gmail.com

WEB: <http://gestaltnagoya.blog.fc2.com>



ゲシュタルト名古屋は2010年4月に千種でスタートしました。その
後「ワークを受けたい方」と、「セラピストを目指したい方」がどちら
も満足していただけるような運営を目指し続けています。

最初は名古屋の方が集まると思って始めた会でしたが, 九州~東北
まで幅広い地方から様々な方が集まってくださり, 今まで続けてこ
られました。

参加者の皆様には, 当会のふわっとした自由な雰囲気を感じ入って
いただくことが多いようです。今後もこの雰囲気を保ちつつ, 長く
継続していきたいと思っています。

今年度のワークショップは

- * トヨ子さん 9月7日・8日
- * 江夏さん 11月16日・17日
- * 岡田さん 2020年3月29日
(1日のみ)

の予定です。

お申込みはゲシュタルト名古屋の
HPにて受け付けています。



団体名: Japanこころとからだのハッピーサポート協会
代表者: 山内 恵子 (やまうち けいこ)

TEL: 090-8544-7020
MAIL: kokokarahappy00yamauchi@gmail.com
WEB: <https://kokokarasapo-to.jimdo.com>



私たち名古屋の「ここからハッピーサポート」の勉強会は、保健師、管理栄養士、歯科医師など医療従事者が多く集まっています。発祥は愛知県の田舎町で毎年年末になると百武さんのゲシュタルトワークを楽しんでいた仲間です。5年前に隔月1回2年間かけて学ぶベーシックコースを立ち上げ、アドバンスコースに発展するときに新たに3人のベーシック仲間を受け入れたことから、その3人の希望を受け入れ、さらにアドバンスコース修了者が再受講するという形で今のアドバンスコースをスタートさせたという、愛情たっぷりメンバーの集う勉強会です。毎回訪れる講師からは「とっても居心地のいい空間」と大好評の場所！楽しい仲間が集まっています。懇親会の後ホテルに泊まる方もいますが、近くのスパに安価にお泊りして、たくさんあるお風呂を楽しんだり、メンバーさんたちとの夜の語り、朝風呂後の語りもなかなかですよ!!

開催場所は名古屋市内となっておりますが、名古屋駅から南の方での開催が多いです。
土日開催が多く、土曜日は懇親会で盛り上げていただきますが、日曜日の終了後はご希望あれば老舗のひつまぶしのお店へご案内いたします。

隔月2日間開催していますが、1日だけに参加も可能、ぜひ気軽にご参加ください。
詳細はこちらのHPゲシュタルトの案内ページで。



団体名: 長野ゲシュタルト研究会
代表者: 三井 洋子 (みつい ようこ)

WEB: naganogestalt.naganoblog.jp/



長野ゲシュタルト研究会は、百武さんのワークショップへの参加を積み重ねたのち、GNJによる長野トレーニングコースを修了したメンバーを中心に活動をしています。
年に数回ファシリテーターを招いてワークショップを開催したり、メンバーによるワークショップを開いてきましたが、本当に「細々と」という言葉がぴったりでした。学会が発足以来、トレーニングコースを開催することができないまま時間が経過しましたが、ようやく参加者が増え始めトレーニングコースへの機運が高まってきました。
2020年にはトレーニングコースができるよう準備を始めました。瞬間瞬間をいきいきと楽しみ、自分の責任で人生を選択していける仲間を増やしたいと思っています。

写真は渋温泉でのワークショップ2日目の朝、運営メンバープラス常連の参加者の皆さんです。
東京から新幹線で1時間半。豊かな自然ときれいな水と空気、おいしい野菜と果物、温泉と山の幸。あわただしい日常から離れて自分と向き合うには良い環境です。初めて参加の人にとってお泊りワークショップはハードルが高いので、現在は長野市内開催が中心です。時には全国の仲間と温泉ワークショップ、スーパービジョンを開催したいと思っています。

団体名：バックアップ3L(Life,Live,Love)

代表者：高森 美紀子（たかもり みきこ）

MAIL: backup3ln@gmail.com

WEB: backup3l.com



ゲシュタルト療法を学び始めてから6年くらい経過したところから、気づいていなかった自分自身を知り、それを受け入れることができるという行動が変化し、日常生活がラクになっていることに気づきました。更に、色々なファシリテーターや仲間との出会いから、投影や融合等を体験を通じて学びました。

このような体験から、2006年3月に「人が生きることや愛すること」をバックアップしたいと考えて『バックアップ3L』を立ち上げました。

ファシリテーターを目指している方を応援するために、3年前からスーパービジョンを年に1回、3日間の合宿形式で行っています。県外からの参加者は新潟メンバーに大きな刺激になるので、メンバーの作る田舎料理で歓迎しています。

今年の前半は、代表者の事情でワークショップは開催できずにいましたが、9月21～23日に長岡市内の寺宝温泉(炭酸泉)で、百武正嗣氏をスーパーバイザーとして迎えるのスーパービジョン開催を皮切りに、順次にワークショップ等を開催する予定です。

急がず、慌てず、ゆっくり向き合えることを心掛けた時間を提供したいと考えていますので、ホームページをご覧ください。

アプローチをお待ちしています。



団体名：ゲシュタルト・インスティテュート(GI)

代表者：岡田 法悦（おかだ のりよし）

MAIL: cocoro@gestalt.co.jp

WEB: <https://gestalt.co.jp>



「受容的なゲシュタルトセラピー」を学ぶグループです。受容的なゲシュタルトとは、「こたえは全てクライアントの中にある」ことを徹底的に信じ、ファシリテーターからの押し付けは一切ない関わりです。そのこたえは、丁寧な「自己内対話」から生み出されます。思考レベルの自己内対話は堂々巡りをつくるだけですが、「今・ここ」での感情・感覚レベルの自己内対話をファシリテートすることで、無意識の深淵に届くワークが可能になります。ゲシュタルトに「馴れ合い、は禁物です。固定メンバーによるコース仕立てのトレーニングは、馴れ合いの予定調和を創り出します。GIの「ゲシュタルトセラピスト養成特訓」は初心者やベテランが混在し、常に「今まで起きたことがない初めてのこと」に対峙できる場を提供します。そして、ゲシュタルトセラピーの4つの基礎理論、現象学、我-汝の対話、場の理論、変容の逆説的な理論をストイックに追求します。

毎月1回、土日2日間の「ゲシュタルトセラピスト養成特訓」コースは、半年間のモジュールに登録するのもよし、1回毎の単発参加もありです。自由で厳しいトレーニング。毎回、ビデオによるスーパービジョンも行います。ぜひ一度参加してみてください。

スケジュールは、
<https://gestalt.co.jp>
でご確認下さい。



団体名: ゲシュタルト療法・東京

代表者: 田中 千恵子 (たなか ちえこ)

MAIL: cmtanaka@flamenco.plala.or.jp
WEB: www.gestalt-therapy-tokyo.jp



ゲシュタルト療法・東京は、2009年から東京の世田谷で、第1期ベーシックコースとして始めました。早いもので、それから10年の月日が経ちました。現在は、6期のアドバンスコースと、7期のベーシックコースを実施しています。年1回の合宿は、湯河原周辺の温泉のある研修施設を利用し、皆さん楽しみに参加しています。

自主トレは、開始してから8年ほど経ちました。最近は、最初からのメンバーから最近、アドバンスコースを修了したメンバーまで、数多く参加し、一緒になってファシリテーター力を磨いています。

ゲシュタルト療法・東京のグループの特徴は、トレーニングコースがウィークデイということで、セラピストや経営者、コンサルタント、またはウィークデイに休みを取れる方などが集まっているということです。さまざまな領域のメンバーで構成されていて、とてもおもしろいです。

オープンのワークショップは、ひと月に3回ほど

気づきのワークショップを月3回ほど行っています。

月1回は、午前中にアレクサンダーテクニクのレッスンを行っています。アレクサンダーとゲシュタルトのコラボレーションは、とても役に立ちます。



団体名: 特定非営利活動法人

ゲシュタルトネットワークジャパン(GNJ)

代表者: 百武 正嗣 (ももたけ まさつぐ)

TEL: 03-5724-4406
MAIL: gnjtoi@gestaltnet.jp
WEB: <http://www.gestaltnet.jp/>



GNJ(ゲシュタルトネットワークジャパン)は、ゲシュタルト療法の創始者パールズの直弟子で、日本にゲシュタルト療法を紹介し実践し続けた故ポーラ・バトム女史に学んだ仲間たちが、彼女の遺志を継いで2002年に立ち上げたゲシュタルト・ファシリテーター集団です。現在は、百武正嗣理事長以下、西田浩子副理事長、前田茂則理事、渡辺トヨ子、河村葉子、相模佳世子、岡本綾子、室城隆之、中山史、有滝功(監事)といったスタッフが、ゲシュタルト療法は初めてという方のための1日体験セミナーから、日本ゲシュタルト療法学会認定のゲシュタルト療法トレーニングコース(ベーシックコース、アドバンスコース各1年)まで、様々なワークショップを実施しています。特に、それぞれのファシリテーターがそれぞれの個性を生かしたワークショップや、トレーニングコース修了者の自主学習の場であるGコースなど、特色のあるプログラムが行われています。

GNJでは、第一線でゲシュタルト療法のアプローチを実践し続けているトップレベルのファシリテーターに、少しずつ新しい仲間も加わりながら、ひとりひとりが個性豊かに、自分のあり方を大切にしながら活動をしています。お互いの考え方や意見の違いを認め合いつつ、自分の選択に責任を持ち、自分らしく自由に存在する生き方を模索しています。その探求をひとりでも多くの仲間と分かち合いたいと願っています。ぜひ、GNJのワークショップにご参加ください。お待ちしております。

団体名: I.P.G.(パーソナルグロース研究所)

代表者: 守谷 京子 (もりや きょうこ)

TEL: 080-5437-2446

MAIL: ipgmoriya@msn.com

WEB: www.kahuna-j.com (内容専用)

www.ipg-training.com (申込専用)



I.P.G.は、1984年から10年近くリック・氏からほぼ毎日ようにゲシュタルト療法を受け学んできた守谷京子が代表となり、1989年に設立された団体です。現在は、東京、岡山、北九州、屋久島に支部があります。欧米での活動も行なってきました。2007年には、エサレン研究所で招聘講師を務めました。理論と実践を中心とした「3年間のトレーニング」を中心として、「ドリーム・ワーク」、「カード・ワーク(投影をもどす)」、「ファミリーワーク/レペアレンティング(再び、自分の養育者となって)」、「クラウニング」、「ディソンドパート」、「統合:男性性&女性性」、「気づきのワーク」、「ボディワーク」「スーパーバイズ」等を提供。ゲシュタルト療法の延長として「ホロトロピック・プレスワーク」「カフナ・サイエンス(古代ハワイの智慧)」等を提供。大企業のCEO候補には、人間力をあげるワークを17年提供。長期に専門的なセラピーを学びたい方、自己成長や問題解決を望んでいる方をお待ちしています。

この35年ほどで、延べ10,000人以上の方と出会ってきた。セラピストの仕事は、クライアントの鏡になること。人生を変えてその人らしく生き活きとしていくのは、その人の自分への愛がなせるわざ。ワークでは、いらなくなった古いパターンがはがれていくので、ちょっと痛みがあるけれど、徐々に自分らしくなっていく。その瞬間、人間の素晴らしさや感謝や人へのいとおしさを感じる。すべての答えは、クライアント自身から生れる。これからもその場に立たせてもらっていることに感謝。

団体名: GESTALT ASSOCIATES JAPAN

代表者: 渡辺 光俊 (わたなべ みつとし)

MAIL: ga@gestalt-a.org

WEB: <https://secure01.red.shared-server.net/www.gestalt-a.org/index.html>



この会は、「受容的なゲシュタルトセラピー」を体験的に学ぶことを目的に、2001年度に日本産業カウンセラー協会東京支部「ゲシュタルトセラピー」の受講メンバーにより、ゲシュタルト療法の自主勉強会としてスタートしました。活動拠点は、特定の場所を所有していませんが、東京の代々木や虎ノ門が主となっています。

参加費は、回数券というユニークな形態をとっています。

多くのコースは、回数券で参加できるようになっています。

メンバーは、カウンセリングを学んでいる人、カウンセリングに携わっている人、日常の疲れや悩みから解き放たれたい人などさまざまです。ゲシュタルト・セラピーに初めて接する方から、ファシリテーターを目指す方まで、一人ひとりの目的やレベルに合わせたコースを用意しています。

当初は、ゲシュタルト療法とはどんなものかと学んだり、ワークを受けることを目的としていたものが、次第にファシリテーターを目指すための学びの場となってきました。そこからゲシュタルトとは何か、ファシリテーターとは何かと少しずつ探求を続けてきました。ここ最近では「プレゼンス」を、今年は「グループファシリテーション」をテーマに学びを更に深めています。

仙台



団体名: ゲシュタルトネットワーク仙台(GNS)

代表者: 小山 久美子 (おやま くみこ)

TEL: 090-9636-2701

MAIL: gestalt.network.sendai2017@gmail.com

WEB: <https://gestaltnetworksend.wixsite.com/sendai>



2013年から杜の都仙台でゲシュタルト療法のワークショップを主催しています。運営はメンバーで協力し合いながら和気あいあいと続けています。メンバーはそれぞれの個人ワークに取り組んできました。現在、ファシリテーションの力をあげるためにCFOや理論の学習をしています。

学会認定のコースもベーシック・アドバンスとそれぞれ2回ずつ開催しました。

ゲシュタルト療法を仙台から東北に広めようと月1回、「1DAYゲシュタルトワークショップ」と定行俊彰氏のスーパーバイズを受けられる「Let'sファシリ」を開催しています。

どちらも参加者を募集していますのでご興味をお持ちいただけましたらお問い合わせください。

自分たちだけのCFOではよく見知ったメンバー同士なのでどうしても緊張感が薄れてしまいます。

そこで全国のメンバーが参加しながらCFOを実施する「Let'sファシリ」を企画。第1回目を仙台で実施。大阪、札幌からの参加があり、緊張感があるCFOとなりました。

アドバンスが終わって自分たちでCFOを行いながら経験を深めている皆さん、ぜひ参加しませんか。各地の団体と交流しながらゲシュタルト療法を深めていきたいと思っています。

札幌



団体名: ゲシュタルト療法・札幌

代表者: 田中 千恵子 (たなか ちえこ)

TEL: 090-7016-0212

MAIL: cmtanaka@flamenco.plala.or.jp

WEB: <https://www.gestalt-therapy-sapporo.jp>



私達は、札幌時計台近くの会場を拠点として活動しているグループです。活動に参加する目的やペースは人それぞれですが、安心して自分らしくいられる場を作りたいという思いは一致しています。

活動としては、月1回の自主練習会(+交流会)と気づきのワークショップ、さらに年数回ファシリテーターを招いてのワークショップ、年1回SV合宿、そしてトレーニングコースを実施していくことが目標です。

特にSV合宿は毎年、海に面した白老で行っています。あらゆる自然に神が宿ると考えるアイヌの人々が暮らすこの土地の自然は、雄大で神秘性すら感じられ、その中にいるだけで深い安らぎを得ることができます。メンバー同士でワイワイガヤガヤ楽しみながら、北の大地で活動を展開中です。

私達はできるだけ他の地域の方々とも交流し、ゲシュタルト療法を学びたいと願っています。学会や他団体の企画で色々な方とお会いできるのを楽しみにしています。また、10月には私達の魂の拠点ともいべき白老で、百武さんを招いてのSV合宿を行います。

密度の濃いSVはもちろんのこと、自然、温泉、海の幸がそろった合宿です。興味のある方はどうぞお気軽にご参加ください。

フォトガイド

よぐござりすた,せんだい(ようこそいらっしやいました,仙台)♡表紙写真の紹介です。

※上段3枚…写真提供:女川町



【女川町内(被災時)】

女川町は、太平洋に突出する牡鹿半島の頸部に位し、当方一帯は太平洋に面しています。東日本大震災では、津波浸水高は、女川町調べで最大20.3mに達し、数波に及ぶ巨大な津波と、その引き波で市街地を根こそぎ破壊していきました。死者・行方不明者は、827人。

【震災時の女川町(役場屋上から)】

役場庁舎3階にある無線室が浸水するまで、職員が町民に避難を呼びかけました。写真のとおり、船や車、家屋がぶつかり合いながら流されました。

【START! ONAGAWA】

2015年3月、JR石巻線が全線再開し、復興に向けて新たなスタートとなりました。そして、その復興計画も2019年3月で終了し、新たな「女川町総合計画2019」をスタートさせ、復興の先に向けたまちづくりに取り組んでいます。




【定禅寺(じょうぜんじ)通り】

大きなけやき並木は四季折々の祭りやイベントにも使われる仙台のシンボルロード。彫刻のあるまち仙台を代表する彫像、エミリオ・グレコ作『夏の思い出』は仙台市民にはおなじみ。全国的に有名になった『ジャズフェスティバル』や『光のページェント』の会場でもあります。

【秋保(あきう)大滝】

名取川の水が幅6m、落差5.5mとなって流れ落ちる滝は壮大な眺めです。日本三名瀑の一つで国指定名勝。緑鮮やかな初夏～紅葉まで美しい姿を楽しめます。『滝見台』からは爆音と水しぶきを上から眺め、遊歩道を渡って滝つぼ近くまで行くと迫力満点の滝を見上げることができます。

【宮城野萩】

宮城県のマーク  のモデルになった花で、宮城県花、仙台市花でもあります。銘菓『萩の月』の方が有名でしょうか？7月～9月にかけて長く花が咲きます。秋には野草園で『萩祭』が開催され、演奏会や野点、お月見と賑わい、萩茶も飲むことができます。

【仙台七夕】

仙台七夕は七つ飾りが基本。大きな飾りのどこかに必ず小さな七つ飾りがあります。
①短冊(学問・書道の上達)
②紙衣(棚機女が神に捧げた衣:病気・災害の身代り)
③折鶴(家内安全・延命長寿)
④巾着(商売繁盛)⑤投網(豊漁・豊作)⑥屑籠(清潔・儉約)⑦吹流(織姫の織糸:機織りや芸芸の上達)

ゲシュタルトの祈り

I do my thing, and you do your thing. 私はわたしのことをする、あなたはあなたのことをする
I am not in this world to live up to your expectations. 私はあなたの期待に沿うためにこの世にいるのではない
And you are not in this world to live up to mine. あなたは私の期待に沿うためにこの世にいるのではない
You are you and I am I. あなたはあなた、私は私
And if by chance we find each other, it's beautiful. それでもしお互いが偶然出会うなら、すばらしい
If not, it can't be helped. そうならないなら、しかたない

(Fredrick S. Perls, 1969, Gestalt Therapy Verbatim) (JAGT News Letter No.12/2017.1 岡田法悦訳)

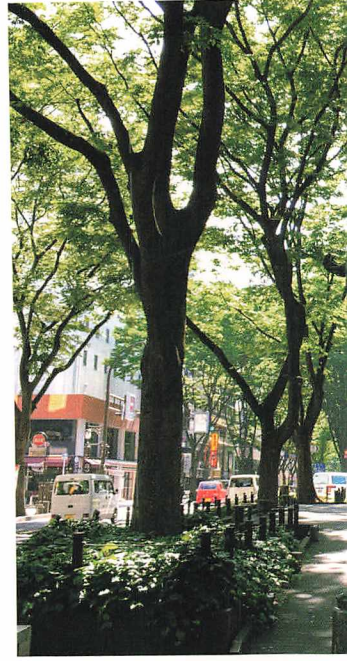
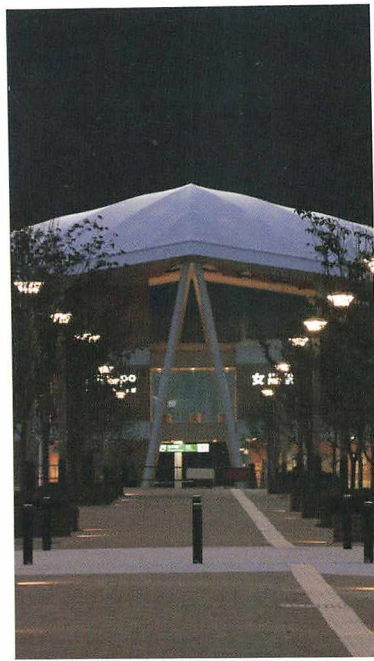
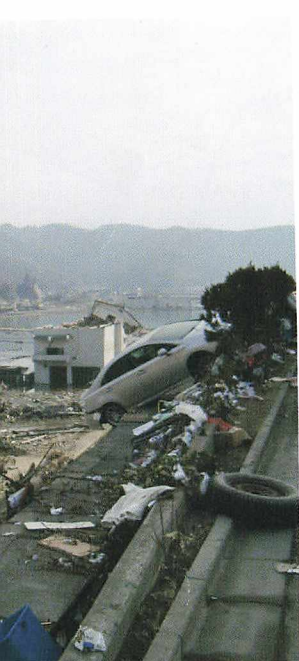
ご参加いただいた全ての方へ、感謝の気持ちを込めて

.....

日本ゲシュタルト療法学会 10周年記念大会実行委員会スタッフ

大会長	定行 俊彰
副大会長	上條 晴夫
事務局長	田沢 由香里
会計	定行 雅代
庶務	藤本 純子
受付担当	浜田 佳子
クローク・ボアランティア担当	七尾 郁子
書籍販売担当	荒谷 雄子
研究発表担当	鈴木 美樹子
ワークショップ担当	小山 久美子
HP・SNS担当	小山 美帆
応接室担当	鈴木 洋子
防災担当	鈴木 景子
HP作成担当	陣内 裕輔
パンフレット作成担当	溜 久美子





後援・協力



後援

公益社団法人 宮城県精神保健福祉協会 みやぎ心のケアセンター

日本交流分析学会

NPO法人日本交流分析協会

一般社団法人日本産業カウンセラー協会

NPO法人日本TA協会

TA研究部会

写真提供(一部)

女川町

トラウマケアに果たすゲシュタルト療法の役割

【日時】2019年7月13日(土)～7月15日(月)(祝)

【場所】仙台市街

大会詳細については、2019年1月頃に
続報をお届けする予定です。

【基調講演】 & 【ゲシュタルト療法ワークショップ】
(仮)ゲシュタルト療法におけるトラウマの実際と留意点

■ PsyD. Talia Bar-Yoseph Levine ■

■ タリア・バーヨセフ・レヴィン ■

臨床心理学者 ゲシュタルトセラピスト

イスラエルのゲシュタルト協会会長

タリアはゲシュタルト哲学が、人間のつながりや
対話のリーダーシップ、異文化間の理解を促し、
より良い世界に貢献していると信じている。

イギリス、チェコスロバキア共和国、ギリシャ、
イタリア、ポーランドなど多くの国々でのゲシュ
タルトセラピストとして活躍している。

【記念講演：西澤 哲】 【講演：福地 成】 【ポリヴェーガル理論講座：津田 真人】
上記はそれぞれ個別に参加できます。参加費は続報にてお知らせします。

■ どなたでも参加できます。

■ 参加費については1日参加、2日参加、3日参加により異なります。

■ 日本ゲシュタルト療法学会会員は割引あり。

■ 大会長 定行 俊彰 よりメッセージ ■ 2019年7月は仙台で学会の大会を行います。今回のテーマは「トラウマケアに果たすゲシュタルト療法の役割」です。自然災害や死別・事故等による単回性のPTSD、虐待や過度な叱責等による複雑性PTSDを面接場面で取り扱うことがあるでしょう。その時ゲシュタルト療法ではどのように扱うのかあるいは注意点は何かについて焦点を当てていきます。複数のトラウマケアスペシャリストが国内外から参加していただきます。3.11被災の地で本大会を開催する意義をかみしめつつ、多くの皆さんとお目にかかれることを楽しみにしています。

大会事務局：ゲシュタルトネットワーク仙台

〒980-0801 仙台市青葉区中央1-1-1 代表 小山久美子 連絡先 090-9636-2701

E-mail: 10taikai2019@gmail.com

Facebook: <https://www.facebook.com/putti.kuma/>

【予定招聘講師】



【記念講演】（仮）虐待等の複雑性トラウマへの介入治療

■西澤 哲■ 山梨県立大学人間福祉学部教授 学部長

1957年、神戸市生まれ。大阪大学人間福祉学部卒。サンフランシスコ州立大学教育学部カウンセリング学科修士課程修了。情緒障害児短期治療施設心理士、大阪大学大学院人間福祉研究家助教授等を経て現職。虐待を受けた子どもや虐待をしてしまう親の支援を中心に臨床活動に従事する。

【対談】 & 【BCT（ボディー・コネクト・セラピー）ワークショップ】

■藤本 昌樹■ 東京未来大学こども心理学部准教授。

臨床心理士。東京学芸大学大学院心理学講座修了。

東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士後期課程修了。

身体志向心理療法であるEMDRやTFTなどを臨床現場で実践する活動を展開し、独自のボディー・コネクト・セラピーを開発した。Seeding Resourceで代表を務め、トラウマなどのセラピーを行っている。



【講演】（仮）災害におけるトラウマケア

■福地 成■ 公益社団法人宮城県精神保健福祉協会
みやぎ心のケアセンター 企画研究部長

青森と北海道にて小児科医として勤務後、宮城県にて精神科医として精神科救急、地域精神保健に従事。東北大学大学院では公衆衛生学教室にて、自殺の疫学・予防を研究。2011年12月より、震災復興に特化した「みやぎ心のケアセンター」に勤務。宮城県を中心として被災地の訪問、各種の普及啓発活動、地域支援者へのスーパーバイズなどを行っている。



【ワークショップ】ポリヴェーガル理論講座

■津田 真人■ 東京都国立市にて心身社会研究所
自然堂（じねんどう）治療室・相談室主宰。

ゲシュタルト・セラピーをはじめ、心身両面を統合する多彩な臨床活動を、27年余にわたり地域で展開。その傍ら、近年はポリヴェーガル理論のセミナーを全国各地で好評開催中。一橋大学大学院社会学研究科後期博士課程修了。精神保健福祉士。鍼灸師。あんま・マッサージ・指圧師。ゲシュタルト・セラピスト。SE™認定プラクティショナー。



■藤本氏との対談■ 中尾 文彦 ■ 私は奈良県にある、やまと精神医療センターで13年ほど仕事をしています。そしてゲシュタルト療法は学びはじめて15年ほどが経ちます。私は精神科でゲシュタルト療法だけを行っているわけではありませんが、私の臨床経験をもとにトラウマのケアにゲシュタルト療法が役に立つのか？についてお話したいと思います。

JAGT

日本ゲシュタルト療法学会10周年記念大会

学術大会&ワークショップ大会
プログラム&募集要項 (第2報)

~トラウマケアに果たすゲシュタルト療法の役割~



開催日：2019年7月13日(土)~15日(月)(祝)
会場：東北福祉大学 仙台東口キャンパス
主催：JAGT10周年記念大会実行委員会
大会長：定行俊彰

後援・協力： 東北福祉大学
TOHOKU FUKUSHI UNIVERSITY

後援： 公益社団法人 宮城県精神保健福祉協会
心のケアセンター
Miyagi Disaster Mental Health Care Center

■ 大会長挨拶 ■

日本ゲシュタルト療法学会10周年記念大会大会長 定行俊彰

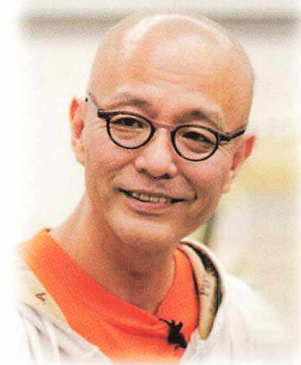
横浜でのJAGT第1回大会から10年の月日が流れ、2019年7月杜の都仙台で10周年記念大会が開催されます。ここ仙台は2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地として現在も復興の途上にあります。津波の被害により喪失した街並みの復興が現在も続いています。そして、被災による心のケアも現在進行形で進んでいます。心理関係者によると、隣の岩手県では被災による心のケアを行う医療機関の予約時から初診まで数カ月かかるとのことでした。このように心のケアは被災からおよそ8年が経過した今でも多くの需要があります。今回のテーマを「ゲシュタルト療法におけるトラウマケアの役割」とした理由がここにあるのです。

3.11などの自然災害や事故・死別などで負う単回性のトラウマや、虐待やいじめ、不適切な養育などで負う複雑性トラウマに対して多くの心理療法の提起されてきています。また脳科学の進歩によりトラウマが身体・脳に及ぼす影響が解明されつつあります。行き過ぎた直面化は再外傷体験になり、治療を行っているつもりが、かえって傷を深くするという事実も明らかになってきています。

今大会では多方面から話題を提供してもらうことで、ゲシュタルト療法におけるトラウマケアの有効性や留意点などを参加者の皆様が考える機会になってほしいと思っています。タリア・バーヨセフ・レヴィン氏にはゲシュタルト療法におけるトラウマケアについての講演とワークショップを行ってまいります。また、西澤哲氏、藤本昌樹氏、福地成氏によるゲシュタルト療法以外のトラウマケア専門家の皆様から話題提供やワークショップを行ってまいり、さらに津田真人氏には、闘争・逃避反応や凍り付き反応を理解するうえで注目されているポリヴェーガル理論の講座を開催してまいります。どの方たちも第一線でトラウマケアに取り組んでいる人たちです。さらに学会員による研究発表やワークショップが今大会の内容を充実させることでしょう。学会員の皆様からの研究発表とワークショップの申し込みを待っています。日頃実践している皆様の成果の発表の場として活用してください。

また、学会員以外の方の参加も大歓迎です。東北地方で心理支援を行っている方や保健・福祉領域の皆さん、これから類似の分野で働こうと思っている学生の皆さんからの申し込みを心から待っています。

2019年7月に運営スタッフ一同、仙台で皆様にお目にかかれることを楽しみにしています。



【定行俊彰】 宮城教育大学教育学部卒業。カリフォルニア臨床心理大学院臨床心理学研究科卒業。米国臨床心理学修士。故竹内敏晴氏よりからだの感覚を磨くレッスンを受け卒業後、からだの声に焦点をあてた「ゲシュタルト療法」を知り、ポーラ・バトム氏等からトレーニングを受ける。

現在個人でカウンセリングルームを開設。宮城県スクールカウンセラー。日本ゲシュタルト療法学会評議員。ゲシュタルト療法以外では、家族療法・短期療法・ペアレントトレーニング・認知行動療法などを学ぶ。

■ 大会日程 ■

■ 2019年7月13日 (土) : 大会第1日目

※大会1日目と2日目のタリアのワークショップはどちらかひとつの参加とさせていただきます。

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	18:30
受付	開会式	61 【基調講演】 タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳：池島良子 ゲシュタルト療法におけるトラウマケアの実践と留意点	休憩	61 ★【記念講演】 西澤 哲 虐待やDVなどの慢性的なトラウマ体験が与える影響の理解と心理療法のあり方	休憩	61 【ワークショップ】 タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳：池島良子	62 【対談】 藤本昌樹&中尾文彦 トラウマ治療への取り組み、治療の現場から	★ 一般参加者の単発参加あり		

■ 2019年7月14日 (日) : 大会第2日目

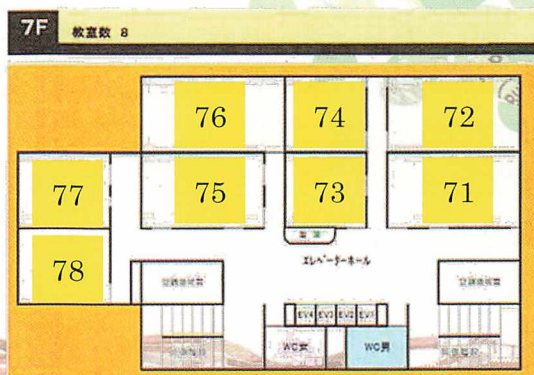
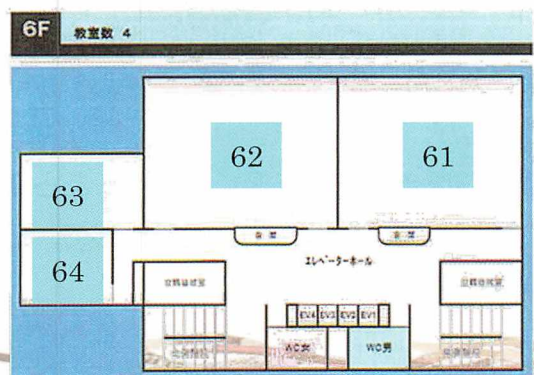
9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
受付	【研究発表】 74~78	61	61	61 【ワークショップ】 タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳：池島良子	62 【講演】★ 福地 成 地域の回復のために私たちは何ができるのか	61 【パネルディスカッション】 タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳：池島良子 西澤 哲 福地 成 藤本昌樹 進行：江夏 亮 トラウマケアにおいて大切にすることは何か	休憩	移動	【懇親会】 仙台ガーデンパレス			

■ 2019年7月15日 (月) (祝) : 大会第3日目

【ワークショップ大会】 71~77

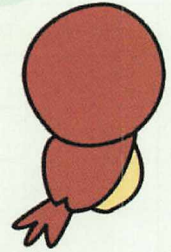
9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
受付	①トラウマビートとしてのゲシュタルト療法の可能性 津田真人 ★	②タリア・バーヨセフ・レヴィンワークショップ 通訳：池島良子	③藤本昌樹 BCT入門ワークショップ	休憩	⑧トラウマビートとしてのゲシュタルト療法の可能性 津田真人 ★	⑨タリア・バーヨセフ・レヴィンワークショップ 通訳：池島良子	⑩藤本昌樹 BCT入門ワークショップ	61 【開会行事】

仙台おすすめの『ちゅん太』で〜す
すずめ踊りが得意でちゅん！
大会に遊びに来てね！
朝から晩までゲシュタルト療法だよん！



7月13日（土） 第1日目

- 9：00 受付
- 10：00 開会式 【61番教室】
- 10：30 基調講演
演題『ゲシュタルト療法におけるトラウマケアの実際と留意点』
講師：タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳：池島良子
- 12：30 昼食休憩
- 14：00 記念講演 【61番教室】 ★一般参加者の単発参加あり
演題『虐待やDVなどの慢性的なトラウマ体験が与える影響の理解と
心理療法のあり方』
講師：西澤 哲
- 16：00 休憩
- 16：30 ワークショップ【61教室】
講師：タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳：池島良子
- 16：30 対談 【62番教室】
演題：『トラウマ治療への取り組み，治療の現場から』
講師：藤本昌樹&中尾文彦
- 18：30 終了



■ 基調講演 ■ 『ゲシュタルト療法におけるトラウマケアの実際と留意点』

PsyD. Talia Bar-Yoseph Levine ～タリア・バーヨセフ・レヴィン～
通訳：池島良子

【タリア・バーヨセフ・レヴィン】 臨床心理学者 ゲシュタルトセラピスト。イスラエルのゲシュタルト協会会長。タリアはゲシュタルト哲学が、人間のつながりや対話のリーダーシップ、異文化間の理解を促し、より良い世界に貢献していると信じている。

イギリス、チェコスロバキア共和国、ギリシャ、イタリア、ポーランドなど多くの国々でのゲシュタルトセラピストとして活躍している。



トラウマは、思いもかけない究極の劇的な出来事です。それは、自分が生まれた時から依って立つ基盤の、すべてとはいいいませんが、ほとんどを崩してしまうのです。たとえば現実には地震が起こり、生活の連続性が断たれる経験はまさに心を深くえぐり、あらゆる面で悪い結果をもたらします。多くの場合、トラウマを体験した人の慢性的な状態として、それを体験していない周囲の人々からの分断、孤立感、憔悴感が引き起こされます。

今回のレクチャーは、体と心、魂、そして理性とは全く相いれないこの症状をどのように立て直し癒すかについてです。急性のトラウマ状態と慢性のものとを区別してお話ししようと考えて

おります。レクチャーの中では、いくつかの PTSD の事例と、ゲシュタルトセラピストとしてそれらをどう捉え、どう向き合うかをお話するつもりです。その関わりは、人の存在に対するゲシュタルト哲学の観点から創出されたものであり、そして同時に、他とは異なる PTSD のケースに対する体への特有な注意の向け方、長く続く深い無力感や絶望感に対する内面からのサポート、自分自身の限界を受け入れること、恐怖との対峙などについて具体的にお話します。

Trauma is the ultimate unexpected dramatic event. It shakes the ground one stands on and most if not the entire infrastructure he or she is stemming from. When the earth actually moves the experience of the continuity breaking is even deeper and all encompassing. It draws a divide between those who experienced trauma and those around them, isolation and sense of depletion often accompany the chronic cases. The lecture is about - body, mind, soul and how to reorganize and heal that which does not adhere to any reason. I shall pay attention to the difference between acute state and the chronic one. The lecture will include a few examples of PTSD cases and how we view and address them as Gestalt therapist. The treatment will be elaborated on from the Gestalt philosophy of being view point as well as a few specifics relevant to PTSD cases such as different attention to body, internal support to sustaining of deep helplessness and hopelessness, acceptance of one' s own limitations, facing horror...

■ 記念講演 ■

『虐待や DV などの慢性的なトラウマ体験が与える影響の理解と心理療法のあり方』 講師：西澤 哲



【西澤 哲】 山梨県立大学人間福祉学部教授 学部長
1957 年、神戸市生まれ。大阪大学人間福祉学部卒。サンフランシスコ州立大学教育学部カウンセリング学科修士課程修了。情緒障害児短期治療施設心理士、大阪大学大学院臨床福祉学講座助教授を経て現職。虐待を受けた子どもや虐待をしてしまう親の支援を中心に臨床活動に従事する。

1995 年の阪神大震災以降、欧米と同様、わが国においてもトラウマ(心理的外傷)への関心が高まり、精神医療や心理療法の領域でもトラウマへの治療的介入が試みられるようになった。トラウマ性の症状に対する治療としては、長時間暴露法(prolonged exposure)や EMDR(eye movement desensitization and reprocessing)などの治療法の有効性が示されてきている。これらの治療法は、災害や事故などの、いわゆる単回性のトラウマ体験に起因する PTSD 症状の改善には効果があるものの、家庭内での虐待や DV などの慢性的・反復的なトラウマ体験によるトラウマ症状への適用には限界があると指摘されている。こうした限界の背景には、単回性のトラウマと慢性的なトラウマによる症状形成の違いがあると推測される。

そこで本講演では、慢性的なトラウマ体験に起因する複雑性 PTSD や発達性トラウマ障害(developmental trauma disorder)を、おそらくはこうした症状形成に影響を与えていると思われるアタッチメント(愛着)の問題を含め、理解するための枠組みを提示し、その上で、こうした問題への精神療法・心理療法のあり方を検討する。

■ 招聘講師ワークショップ ■

『ゲシュタルト療法を用いたトラウマケアの実際』

講師：タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳：池島良子

タリア・バーヨセフ・レヴィン氏によるワークショップ（以下、WS）は、多くの参加者で行われる1日目と2日目のWSと、3日目午前・午後に分けて行われる少人数の2種類があります。

基調講演の内容をさらに深め参加者の皆さんが、レクチャーやデモンストレーションのワーク、質疑応答などを通してより体験的に学ぶ時間になるでしょう。

少しでも多くの皆様に体験していただくため、1日目と2日目のWSはどちらかひとつの参加とさせていただきます。

■ 対 談 ■

『トラウマ治療への取り組み、治療の現場から』

藤本昌樹&中尾文彦

身体志向心理療法であるEMDRやTFTなどを臨床現場で実践しながら、独自のトラウマケア療法であるボディ・コネクト・セラピー（以下、BCT）を開発した藤本昌樹氏とゲシュタルト療法学会会員でもあり、EMDRやイメージ療法など様々な心理療法を組み合わせながら、長年精神科医療において心理士として実践を積み重ねている中尾文彦氏による対談です。

EMDR・TFT・BCTはゲシュタルト療法と同じく身体志向心理療法でありながら、そのアプローチは大きく異なります。クライアントの安心・安全に最大の配慮を行いながら眼球運動とタッピングなどを用いた画期的なトラウマケア療法ともいえるでしょう。

この対談では藤本昌樹氏にBCTについての解説を行ってもらうところからスタートします。それに対して中尾文彦氏からトラウマケアに対する自身の考えや日頃の実践例を交えながら質問を行っていくスタイルで展開して行きます。臨床現場での治療経験、EMDRという共通項、BCTとゲシュタルト療法という異なるアプローチの二者の話題が交差しながら対談ライブが展開していきます。

初顔合わせの実践家によるトラウマケア論を楽しみにしていきましょう。

【藤本昌樹】 臨床心理士。東京学芸大学大学院心理学講座修了。東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士後期課程修了。身体志向心理療法であるEMDRやTFTなどを臨床現場で実践する活動を展開し、独自のボディ・コネクト・セラピーを開発した。Seeding Resourceで代表を務め、トラウマなどのセラピーを行っている。



【中尾文彦】 私は奈良県にある、やまと精神医療センターで13年ほど仕事をしています。そしてゲシュタルト療法は学びはじめて15年ほどが経ちます。私は精神科でゲシュタルト療法だけを行っているわけではありませんが、私の臨床経験をもとにトラウマのケアにゲシュタルト療法が役に立つのか？についてお話したいと思います。

7月14日(日) 第2日目

- 9:00 受付
- 9:30 研究発表 ①～⑤ ※募集要項 P.10 参照 【74～78教室】
- 10:30 休憩
- 10:45 研究発表 ⑥～⑩ ※募集要項 P.10 参照 【74～78教室】
- 11:45 休憩
- 12:00 JAGT 総会 (JAGT 会員は昼食を持参の上、ご参加ください)【61教室】
- 13:00 休憩
- 13:15 ワークショップ 【61教室】
講師：タリア・バーヨセフ・レヴィン
通訳：池島良子
- 13:15 講演 【62教室】★ 一般参加者の単発参加あり
演題『地域の回復のために私たちは何ができるのか』
～東日本大震災後の復興からみえること～
講師：みやぎ心のケアセンター 福地成
- 15:15 休憩
- 15:45 パネルディスカッション 【61教室】
タイトル『トラウマケアにおいて大切にすることは何か』
パネラー：タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳：池島良子
：西澤 哲：福地 成：藤本 昌樹
進行：江夏 亮
- 18:00 終了
- 19:00 懇親会 ホテル仙台ガーデンパレス 2F 鳳凰 ￥6,000-
宮城県仙台市宮城野区榴岡4丁目1-5 ※事前申し込みあり



■ 招聘講師ワークショップ ■

『ゲシュタルト療法を用いたトラウマケアの実際』

講師：タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳：池島良子

タリア・バーヨセフ・レヴィン氏によるワークショップ(以下、WS) 13日(P.5)と同様

■ 講演 ■

『地域の回復のために私たちは何ができるのか』 講師：福地 成



【福地 成】 公益社団法人宮城県精神保健福祉協会。みやぎ心のケアセンター 副センター長。青森と北海道にて小児科医として勤務後、宮城県にて精神科医として精神科救急、地域精神保健に従事。東北大学大学院では公衆衛生学教室にて、自殺の疫学・予防を研究。2011年12月より、震災復興に特化した「みやぎ心のケアセンター」に勤務。宮城県を中心として被災地の訪問、各種の普及啓発活動、地域支援者へのスーパーバイズなどを行っている。

東日本大震災では、約40万人が避難所を利用し、そのなかには高齢者や障害者をはじめ特別な配慮を要する人々が多く含まれていた。避難所の多くは学校の体育館などの広い空間であり、プライバシーを守るための仕切りもない中での生活を余儀なくされた。それぞれが余裕を失った中で、お互いを思いやることは難しく、興奮と緊張の中で過ごしていた。このような状況下では、心理的なストレスを感じていたとしても自ら相談機関へ訪れることは稀であり、精神保健の専門職は被災者のもとへ出向く必要性が高まった。

精神保健の支援者は、個人の回復のために現場で、来所型の支援を中心に活動してきた支援者も多かった。ところが、災害発生後には地域全体の健康を守ることも重要視され、『来所型』の支援者も『訪問型』にシフトする必要性が高まった。

およそ8年が経過したいま、地域生活や支援活動には時々刻々と変化が見られる。地域住民は仮設住宅から復興住宅へ移動し、それぞれが抱える社会問題と対峙している。全ての根源はいずれも将来が見えないことへの不安感にあり、時期や地域によって抱える問題が異なっている。

もはや「こころのケア」だけに焦点付けした対応では不十分であり、雇用や経済情勢に即した政策を必要としている。精神保健の専門職は地域の他機関とつながり、公衆衛生としてのメンタルヘルスに参画する必要性が高まっている。

学会当日は、上記のポイントに焦点を当て、災害後の心理的支援について若干の考察を加えて話題提供したい。

■パネルディスカッション ■ 『トラウマケアにおいて大切にすることは何か』

パネラー：タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳：池島良子

：西澤 哲：福地 成：藤本昌樹

進行：江夏 亮

ゲシュタルト療法を用いたトラウマケアを実践しているタリア・バーヨセフ・レヴィン氏、児童虐待治療分野で活躍しておられる西澤哲氏、東日本大震災後の心のケアを精力的に行っている福地成氏、独自の身体志向療法BCTを用いてトラウマケアを実践している藤本昌樹氏の4氏による対談です。

トラウマケアと一口に言っても様々なアプローチが存在しています。また急性の単回性トラウマや長期にわたる複雑性トラウマに対する治療の違い。治療対象が大人なのか子どもなのかによって異なるアプローチ。震災という大規模な自然災害後に求められる心理支援。トラウマケアという言葉で一括りにするものの、個人の外傷経験は複雑で多様を極めていきます。

今回の対談では、それぞれの専門分野の話を交えながら、具体的なアプローチの違いを超えて根底に共通するであろう「トラウマケアにおいて大切にすること」が浮かび上がってくることでしょう。参加者との質疑を交えた熱く貴重な時間となるでしょう。

7月15日(月)(祝) 第3日目

9:00 受付

9:30 ワークショップ大会 ①～⑦ 【71～77教室】★ 一般参加者の単発参加あり

① 『トラウマセラピーとしてのゲシュタルト療法の可能性』

～ポリヴェーガル理論との対比から～

講師：津田真人

～7～

② 『ゲシュタルト療法を用いたトラウマケアの実際』

講師：タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳：池島良子

③ 『BCT 入門ワークショップ』 講師：藤本昌樹

④ ～ ⑦ 学会員ワークショップ ※募集要項 P.11 参照

12:00 休憩

13:30 ワークショップ大会 8～14 【71～77教室】★一般参加者の単発参加あり

⑧ 『トラウマセラピーとしてのゲシュタルト療法の可能性』

～ポリヴェーガル理論との対比から～ 講師：津田真人

⑨ 『ゲシュタルト療法を用いたトラウマケアの実際』

講師：タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳：池島良子

⑩ 『BCT 入門ワークショップ』 講師：藤本昌樹

⑪ ～ ⑭ 学会員ワークショップ ※募集要項 P.11 参照

16:00 休憩

16:30 閉会式 【61教室】

17:00 大会終了



■ 招聘講師講座 ■

『トラウマセラピーとしてのゲシュタルト療法の可能性』
～ポリヴェーガル理論との対比から～

講師：津田真人



【津田真人】 東京都国立市にて心身社会研究所 自然堂（じねんどう）治療室・相談室主宰。ゲシュタルト・セラピーをはじめ、心身両面を統合する多彩な臨床活動を、27年余にわたり地域で展開。その傍ら、近年はポリヴェーガル理論のセミナーを全国各地で好評開催中。一橋大学大学院社会学研究科後期博士課程修了。精神保健福祉士。鍼灸師。あんま・マッサージ・指圧師。ゲシュタルト・セラピスト。SETM 認定プラクティショナー。

「ポリヴェーガル理論」(Polyvagal Theory) の名前は、初めて耳にする方も多いかもかもしれませんね。欧米ではすでに、最先端のトラウマ理論の1つとして、多方面に大きな影響を与えていますが、それと照らしながら、ゲシュタルト療法をトラウマケアとして発展させるヒントや可能性を探ってみようというのが、この講座のねらいです。まずはポリヴェーガル理論の概要を解説したうえで、そのゲシュタルト療法との異同を検討しながら、ゲシュタルトのトラウマセラピーとしての可能性を考えていきます。

実は両者は、根本では共通点が少なくありません。どちらも、心身統合的な「有機体」を主体にすえ、そのホメオスタティックな生命のリズムを重視します。特に外界との「コンタクト回避」のリズムや、「関与-非関与」のリズムを重視します。そのバランスの乱れに、ストレス・トラウマなどの「未完了の問題」(unfinished business) をみます。その回復には、「今・ここ」という真正な、あるいは「安全な」場を不可欠とします。

でも同時に両者は、その各々の点で、微妙にズレをみせます。そのズレを掘り下げてみると何が違ってくるか!?例えば、ゲシュタルトではストレスとトラウマが「未完了の問題」の中に渾

然一体となっていますが、そもそもストレスとトラウマって、同じものなのか、違うものなのか？同じケアでいいのか、違うケアが必要なのか？そんな辺りを手始めに、ゲシュタルトの可能性を、当日と一緒にいろいろと考えていけたらと思っています。

■ 招聘講師ワークショップ ■

『ゲシュタルト療法を用いたトラウマケアの実際』

講師：タリア・バーヨセフ・レヴィン 通訳：池島良子

タリア・バーヨセフ・レヴィン氏による少人数のワークショップです。

基調講演の内容をさらに深め参加者の皆さんが、レクチャーやデモンストレーションのワーク、質疑応答などを通してより体験的に学ぶ時間になるでしょう。

■ 招聘講師ワークショップ ■

『BCT（ボディ・コネクト・セラピー）入門ワークショップ』

講師：藤本昌樹

【藤本昌樹】 臨床心理士。東京学芸大学大学院心理学講座修了。東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士後期課程修了。身体志向心理療法であるEMDRやTFTなどを臨床現場で実践する活動を展開し、独自のボディ・コネクト・セラピーを開発した。Seeding Resourceで代表を務め、トラウマなどのセラピーを行っている。



ボディ・コネクト・セラピー（以下、BCT）は、日本発の新しいセラピーです。

EMDRやTFT（思考療法）、SE（ソマティック・エクスペリエンス）といった身体志向のセラピーを統合し、さらに創始者の新しい発見によって開発された統合的な身体志向心理療法です。

BCTは2016年に発見され、発展途上のセラピーではありますが、日本のトラウマ・セラピストの間では評判となり、2018年に2回行われたワークショップも40分ほどですぐに満席となり、日本でも100名を越すBCTセラピストが誕生しています。それらの多くは、臨床心理士や医師であり、すでにEMDRなどを学んできた人たちがその効果に驚嘆しています。

BCTは臨床場面の中で、特に複雑性PTSDの方々への安全なトラウマ処理の手法として誕生しましたが、適用範囲は広く、疼痛などの身体的な症状にも使用可能です。また、処理速度も多くの場合15分～20分未満とするデータもあります。必要以上に神経系の活性化を高めることもなく、解離性症状をもった人にも、滴定（てきてい：調節の意）を行いながら安全に使用することが可能となっています。

今回のワークショップでは、このBCTの誕生した経緯、それを支える諸理論やBCTの治療機序仮説、そしてBCTの臨床の実際についてワークを交えながら紹介したいと思います。



■ 研究発表募集要項 ■

1. 演題登録期間 2019年1月20日(日) 受付開始～
2019年3月31日(日) 24時受付終了

※発表内容やタイトルが未定でも、【やります】という方は、まず申し込んでください。

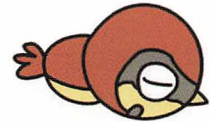
2. 発表抄録原稿 締切 2019年4月30日(金)

3. 発表演題・抄録原稿の送り先

大会長あてEメールでお申し込みください。

Email : 10taikai2019@gmail.com

JAGT 10周年記念大会大会長 定行俊彰



4. 発表者について

発表者は、演題締め切りまでに本学会会員であることが必要です。会員でない方は日本ゲシュタルト療法学会事務局(JAGT)までお問合せいただき、学会入会の手続きをおとりください。

※個人発表、グループ発表のどちらも可能です。但し、入会は個人となります。

5. 発表方法

一人当たり発表時間は60分とします(発表40～45分、質疑応答15～20分)

発表者多数の場合は発表時間が短くなることがあります。

発表時に資料を配布される場合は40部程度をご用意ください。発表に際してはプロジェクター等の機器の利用が可能です。

6. 発表抄録の作成要領

発表抄録は下記の作成要領を参考にして、原稿を第10回大会大会長(定行俊彰)までEmail(添付ファイル)でお送りください。様式はA4版ワープロ用紙(白紙)に横書きとします。

字体は明朝体とし、指定された字の大きさに作成してください。(題目、発表者、所属は中央揃え、本文はヨコ40字×タテ40行)。枚数は2ページ以内です。

↑ (*上余白: 2cm あける)
官庁におけるゲシュタルト療法実践の試み (*タイトルの文字は12ポイント。1行あける)
山本 花子 (〇〇〇〇所属)
(名前の大きさは12ポイント・所属: の大きさは10.5ポイント。1行あける)
【目的】官庁におけるゲシュタルト療法を実践……
【方法】官庁Xの職員を対象に、ゲシュタルト療法のワークショップを展開……
← 2cm 2cm
..... (*本文の文字の大きさは12ポイントとする)
【結果・考察】ゲシュタルト療法を実施したA群は、対照群と比べ……
本研究の結果から、.....
↓ (*下余白: 2cm あける)

7. 発表時に必要なものをお知らせください。

スクリーン・プロジェクター・音声用マイクなど。動画を音声付きで映写するかどうかも合わせてお知らせください。

PCは各自持参でお願いします。

■ ワークショップ募集要項 ■

今大会において会員からのワークショップ開催希望者を募ります。この機会に日頃各地で実践している皆さんの活動の一端をワークショップという形で紹介していただき、大会参加者が共有できる学びの時間の提供をお願いします。

1. 募集内容：8枠

- ① 大会テーマ「トラウマケアに果たすグシュタルト療法の役割」に沿ったワークショップ4枠程度。
- ② 大会テーマに関係なく、日ごろ実践しているワークショップ4枠程度。

2. 参加資格：日本グシュタルト療法学会会員

※個人及びグループでの申し込み可能

3. 開催日：2019年7月15日（月）午前・午後（2時間半）

4. 申し込み：大会事務局に下記の①～⑦を記入の上、メールにてお申し込みください。

- ①氏名
- ②所属団体
- ③大会テーマに沿った内容 及び テーマに関係なく日頃実践している内容のどちらかを明記
- ④ワークショップタイトルテーマ
- ⑤主旨（200文字以内）
- ⑥ファシリテーターの簡単なプロフィール 及び 顔写真
- ⑦午前・午後の希望（どちらでもよい場合は記入の必要はありません。）
- ⑧大会事務局で準備してほしい物

ワークショップで使用するものはなるべく各自で用意していただきたいのですが、遠方から持っていくのが難しい等の理由がある場合は記入してください。すべてご希望に添えるかどうかはわかりませんが受付後相談しながら進めていきます。部屋は基本的に会議室です。和室は会場にありませんのでご了承ください。

5. 申込期間：2019年1月20日（日）～2019年3月31日（日）

6. 選考：申し込み多数の場合はこちらで選考する場合がありますのでご了承ください。
7. その他：テーマや詳細が決まっていなくても、【やりたい】という方は、まずその旨を明記の上申し込んでください。

10. 申込・問い合わせ先 Email : 10taikai2019@gmail.com
JAGT10周年記念大会大会長 定行俊彰

■ 仙台とすすめのお話 ■



仙台といえば有名な戦国武将の伊達政宗。伊達家の家紋は8つありましたが、一番有名なのがこの【竹に雀】です。政宗の大叔父が上杉家の養子になる際に引き出物として譲り受けた家紋です。養子縁組の話はなくなったのですが、家紋は伊達家で大切に使われました。

「竹に雀」は取り合わせが良いというたとえにも使われます。

毎年5月の青葉祭では、両手に扇子を持って踊るすすめ踊りが披露されます。仙台とすすめは、ちょっとご縁が深いのです。



■ ボランティア大募集 ■

大会の運営を円滑に行うために皆様からのボランティアを募集します。仙台の中心スタッフだけでは人員が不足しているため是非お願いいたします。学会員、一般、学生を問わず募集します。募集はホームページ上の参加申し込みからお願いします。

募集要項

1. 業務内容 仙台駅から会場までの道案内
大会当日の受付・書籍販売・クローク管理など
会場整理
ワークショップ、研究発表での写真記録・入場管理
講師等の弁当の受け取り・配布
その他業務
※どの業務になるかは事務局で割り振りをさせていただきます。
2. 日数・時間 以下の6区分で募集します。複数区分を希望していただけると嬉しいです。



①	7月13日(土)	8:00~13:30
②	7月13日(土)	13:00~19:00
③	7月14日(日)	8:00~13:30
④	7月14日(日)	13:00~18:30
⑤	7月15日(月)	8:00~13:30
⑥	7月15日(月)	13:00~18:00

※各区分おおよその時間帯です。詳細は申し込まれた方に連絡いたします。

※ボランティアの打ち合わせがあります。日時は追って連絡いたします。

3. 募集期間 2019年3月1日(金) ~ 5月31日(金)
4. 応募方法 ホームページ上から参加申し込みの際に、ボランティア募集項目の区分にチェックを入れてください。
5. その他 ボランティアの皆さんにはボランティアを行っていただいた日の弁当を支給します。大会Tシャツもお渡しできるように、ただ今、奮闘中!



■ 参加申込要領 ■

下記の大会 HP アドレスより専用フォームに必要事項をご入力の上、お申込みください。



※学生・院生の方は申込時に申告していただき、
当日学生証をご提示ください。

申込受付開始 2019年3月1日(金)～7月1日(月)

<https://www.jagt-sendai.com>

※大会参加とワークショップ参加申込につきまして HP 上の申し込みは 7月1日 で締め切らせていただきます。7月2日以降の参加希望者は、当日、直接会場にお越しください。どなたでも参加できます。ただし、定員のあるものにつきましては空きがある場合のみ参加可能です。

1. 参加費

5月31日(金)までに着金確認できた方(早割り)			
参加区分 \ 参加日数	3日間	2日間	1日間
JAGT会員	20,000円	15,000円	10,000円
一般	25,000円	18,000円	12,000円
学生	10,000円	8,000円	6,000円

6月1日(土)以降の着金の方			
参加区分 \ 参加日数	3日間	2日間	1日間
JAGT会員	25,000円	18,000円	12,000円
一般	30,000円	20,000円	14,000円
学生	15,000円	10,000円	7,000円

※5/31 に入金した場合は
当日の着金にならない場合
がありますのでご注意ください。

気をつけてね!



2. 単発参加 1 枠 2,000 円 ※学会員以外の方限定

- ① 7月13日(土) 記念講演 西澤哲氏 定員 なし
- ② 7月14日(日) 講演 福地成氏 定員 なし
- ③ 7月15日(月) 講座 津田真人氏 各定員20名(先着順)

3. 懇親会 7月14日(日) 19:00～21:00

参加費 6,000円

場 所 仙台ガーデンパレス(大会会場向い)

4. ワークショップ(7月15日(日))の事前申込について

同上専用フォームより

2019年6月1日(土) 午前8時～ 7月1日(月)

ワークショップはすべて事前申込となります。タリア・バーヨセフ・レヴィン氏、藤本昌樹氏、津田真人氏、学会員によるワークショップです。学会員によるワークショップのタイトルは決定次第、大会 HP フォームにて告知します。

※参加人数に上限があるため、ご希望のワークショップに必ず参加できるとは限りません。詳しくは HP 上の注意事項を確認してください。

■ 大会記念

いまここ

■ Tシャツ 予約申込 ■



写真はイメージです

大会Tシャツ1枚 ￥2,000-

Tシャツを予約販売します。大会HPより、サイズと色をご指定ください。当日、お渡しいたします。

胸部分にロゴが入る予定です。

申込〆切 2019年5月31日(金)



ブラック



ターコイズ



グリーン



デイジー



ホットピンク

	S	M	F	XL	XXL
身長	155-165	165-175	170-180	180-190	180-195
胸囲	80-88	88-96	96-104	104-112	110-118

■ 宿泊・交通手段はお早めの手配を！ ■

仙台駅周辺のホテルは、土日は大変混みあい、料金も高くなります。

三連休でもあり、学会当日には1500人規模の大きな国際学会も開催されます。

是非、ぜひ、早めの手配をお勧めします。

ネット上で発売してなくても、

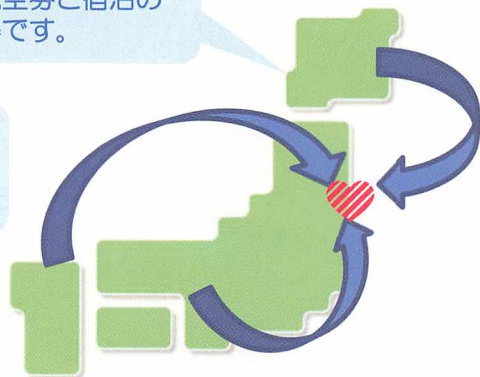
直接電話をすると受付けてくれる所もあります。

北海道・大阪・神戸・九州
などからは航空券と宿泊の
パックがお得です。



仙台空港にはANA・JALの他、
スカイマーク・ピーチ・エアドゥも
乗り入れています。

2019年7月、仙台でお会いしましょう！
お待ちしております。



■ バスツアー参加者募集 ■ 震災と復興を体感する ■

2019年7月16日(火) 9:00~17:00頃予定

申込〆切 2019年4月30日(火)

バスツアーの参加者を募集します。HPよりお申込みください。大会参加者向けのものです。バスツアーのみの参加はご遠慮ください。

仙台駅発着。南三陸町のホテル観洋にて三陸の海の幸の昼食と海が見える温泉を堪能します。ホテル観洋の有名な【語り部バス】に乗り、震災のお話を伺います。時間によって震災遺構となった大川小学校などにも立ち寄りたと思っています。詳細は参加者に直接連絡します。

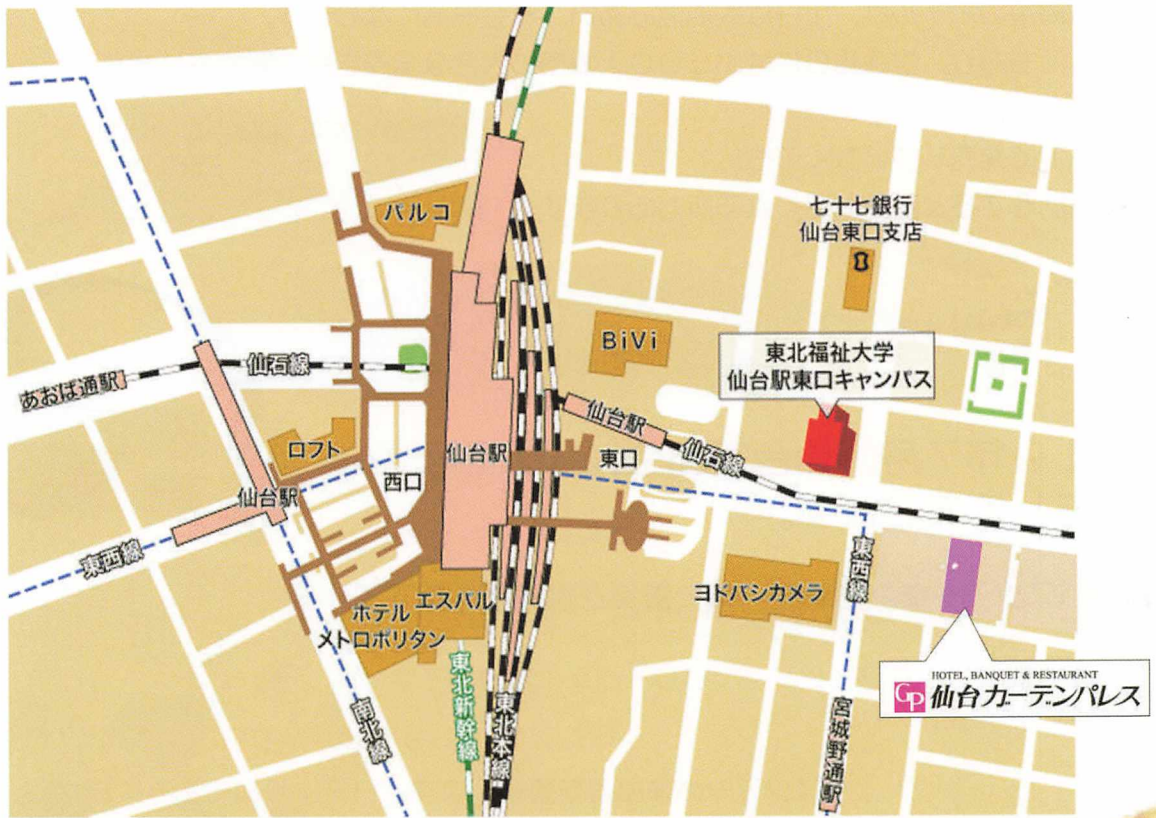
最少催行人数20名(予価 10,000円前後：参加者数による)





申込日程一覧

参加区分	申込開始	申込〆切	申込窓口
研究発表希望者	2019年1月20日 (日)	2019年3月31日 (日)	Email : 10taikai2019@gmail.com
ワークショップ開催希望者			
大会参加者	2019年3月1日 (金)	2019年7月1日 (月)	大会HP上の申込フォームより https://www.jagt-sendai.com
単発参加者(一般)		2019年7月1日 (月)	
懇親会		2019年5月31日 (金)	
ボランティア希望者		2019年4月30日 (火)	
Tシャツ			
バスツアー			
ワークショップ参加申込	2019年6月1日 (土)	2019年7月1日 (月)	※大会参加とワークショップ参加申込につきましてHP上の申し込みは7月1日で締め切らせていただきます。7月2日以降の参加希望者は、当日、直接会場にお越しください。定員のあるものにつきましては空きがございましたら参加可能です。



会 場 東北福祉大学 仙台東口キャンパス
 仙台市青葉区宮城野区榴岡2丁目5番26号
<https://www.tfu.ac.jp/access/higashiguchicampus.html>
 JR 仙台駅より徒歩3分
 地下鉄東西線宮城野通駅徒歩3分